10月號

婦人運動

第5巻第9號



大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）昭和二年九月廿八日印刷納本同二年十月八日發行——第五巻第九號

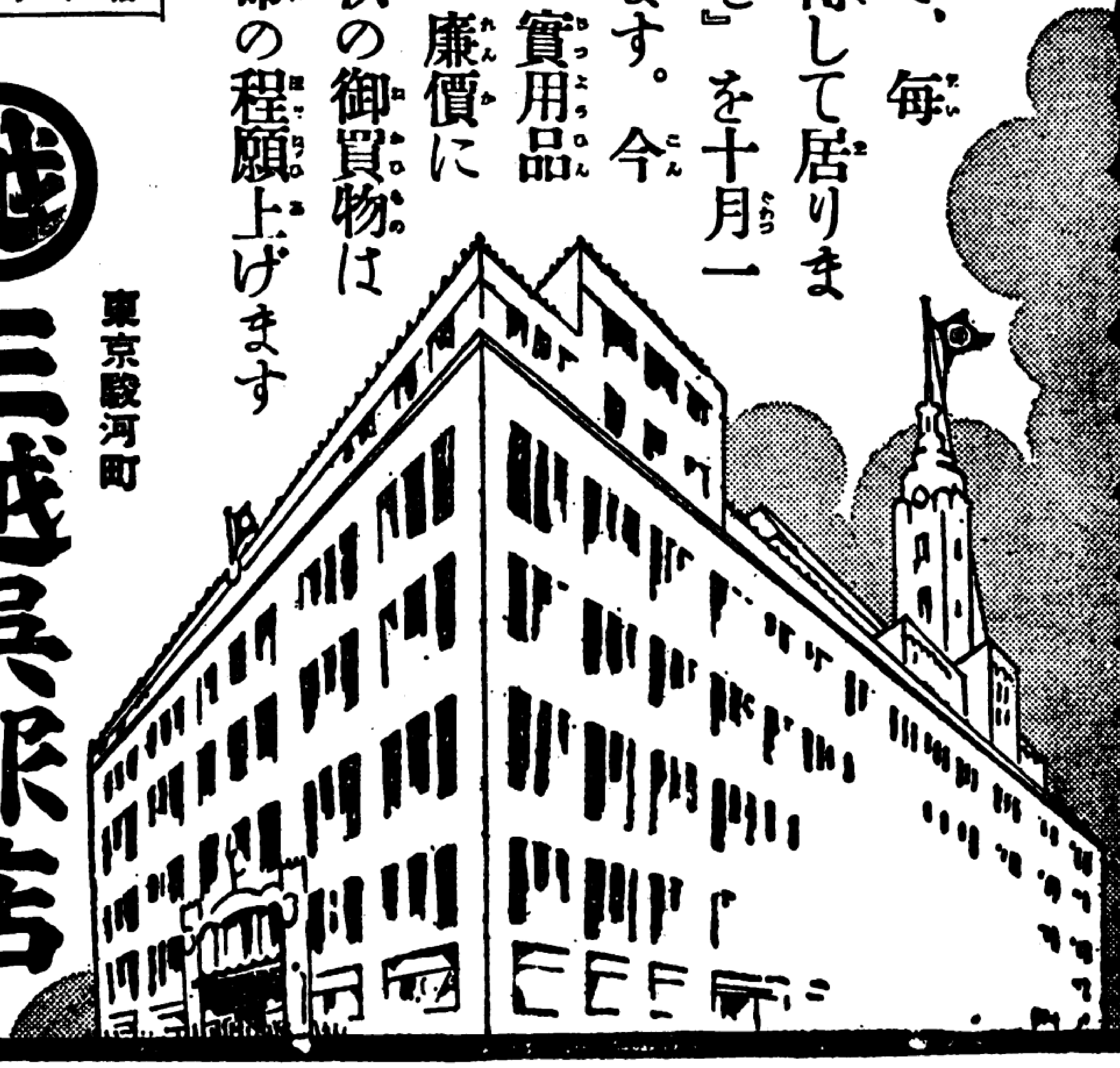
職業婦人社發行

秋の大賣出し

……今秋の流行品も實用品もを潤澤に取揃へました……

年中行事のうちで、毎年最も御好評を博して居ります『秋の大賣出し』を十月一日より開催致します。今年は殊に流行品、實用品を澤山に取揃へ、廉價に提供致します。秋の御買物は何卒三越へ御用命の程願上げます

御手紙で御注文の際は何卒「通信販賣係」に御願ひ致します。御申越次第カタログ御送附申上げます



東京駿河町

三越呉服店

新刊無產社パンフレット

▼私は斯ふ考へる……山川均著……(價二十錢 税二錢)

昨年來喧しく叫けばれて來た理論闘爭に對して永らく沈默を守られた氏の答へである。理論闘爭の中心を流れる各種の問題に就て詳細にして且嚴密なる批判を加へられ、徒に聲のみ大きくし、理論闘爭の文句に醉ふて、空虚な、遊戲に等しき行動理論に對してキタンなき批評と叱正を加へられてゐる。吾等は眞實の意味に於ける理論闘爭の尊を考へるとき、先づ此書を繙くことを忘れてはならぬ。

▼勞働運動と理論闘爭……荒畑寒村著……(價二十錢 税二錢)

世界無產階級運動の理論家にして實際運動家たるレーニンの戰術を如何にして我が國の實際運動に折込み、當ハメるか？　これは吾々に殘された最も大きな宿題である。過般來喧しく叫ばれてゐる理論闘爭も一にこの問題にかゝつてゐる。この書の內容も勿論これに索きてゐるが、經驗多き先輩はこの問題に對して何と答へ、何と主張せらるるか？　只に實際運動家に止まらず、無產者諸君の必讀のものと堅く信ずる。

今の世の中……小伏濱太郎

現代社會のからくりを平易と明解に說いたもの、勞働者はナマケルか。無理やりナマケさせられる。農民は企業家か、小商人の境遇其他十數篇。

いかけ松……堺利彥

いかけ松が味ふ社會苦、富の由來、サアこれからだぞと決後にいかけ松の熱心を物語る。社會改革の思想が如何に折込まれてゐるか一讀に値する。

停電……堺利彥

父はストライキの爲めに食ふや食はずに活動してゐる。家には病める子供、食を求めるがんぜなき子供を持つ母の苦しみを描き、共同の義務の尊さを物語る。この他短篇三種を加へたもの。

一休と自來也……堺利彥

『世の末ぢや、お前達の世の末ぢや』と一休の云つた言葉がそのまゝ資本家階級に向けられる、今様一休は何を物語つてゐるか。

══ 價各拾錢 ══

- 婦人問題の本質(近刊)……堺利彥……一〇
- 婦人と政治……(同)……山川菊榮……一〇
- 新ロシヤの婦人……(同)……近藤榮藏……一〇
- 勞働婦人問題……(同)……堺眞柄……一〇
- 婦人運動史……(同)……甲野一雄……一〇

◇圖書目錄『名著だより』は無代進呈。但し二錢切手封入のこと

月刊リーフレット『赤い星』は一部三錢內容は短文平易。

發兌　東京麴町八ノ二〇　振替東京二四六二六　無產社

第五巻第九號 婦人運動（十月號目次）

井口丑二著

最新刊

長篇小説 生きる力

四六判 五七〇頁
定價 二圓五十錢
送料 十八錢

教祖小説を書く！

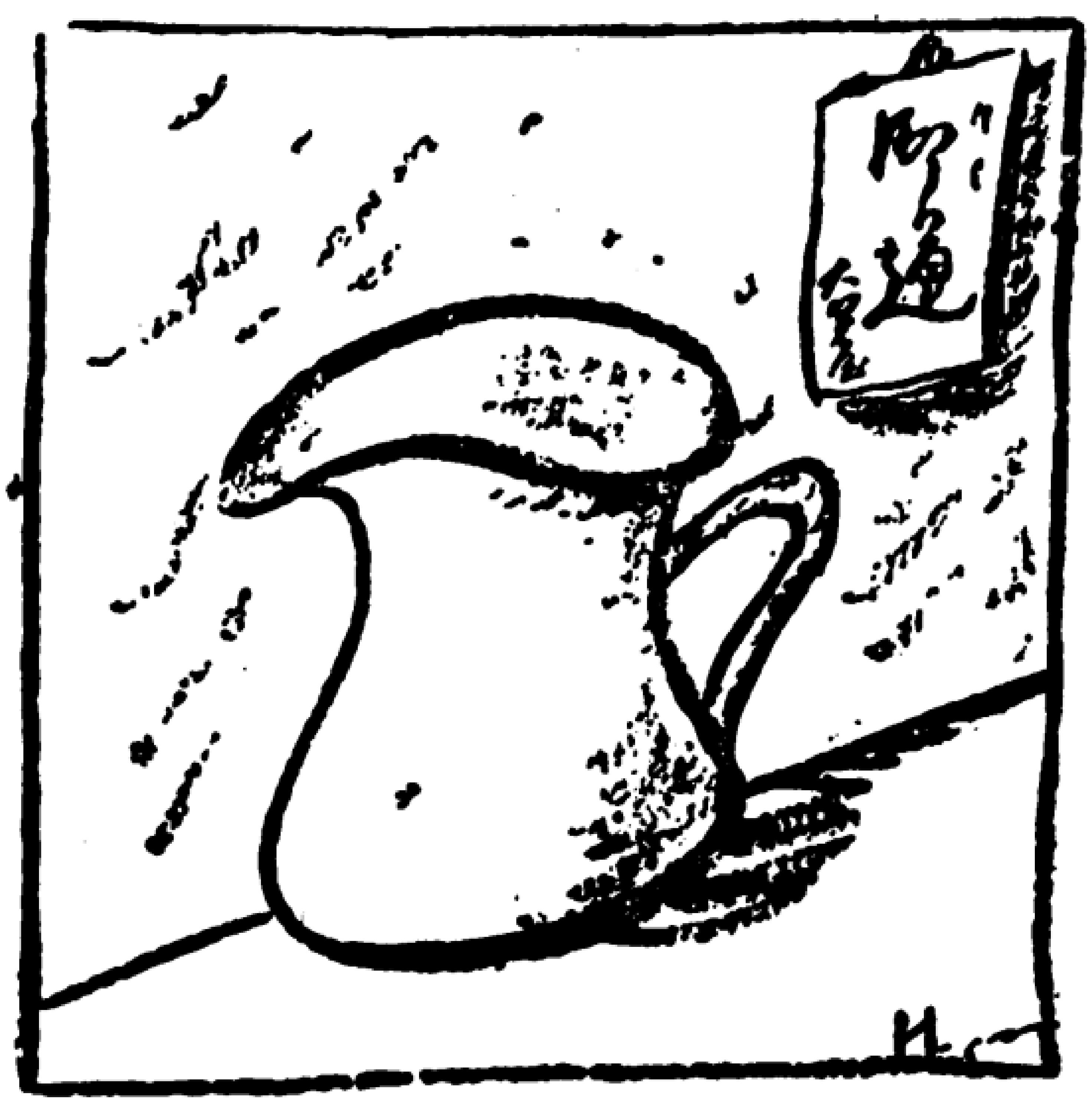
神國教の創始者であり、二宮研究の最高權威たる著者が深刻なる生活苦と敬虔なる體驗から滲み出でた大創作、人間生命の秘密と愛の神秘力が物恐しきまで一卷の中に充ち溢れてをる。魂の救ひ、愛の大説教として大方の愛讀を禱る。

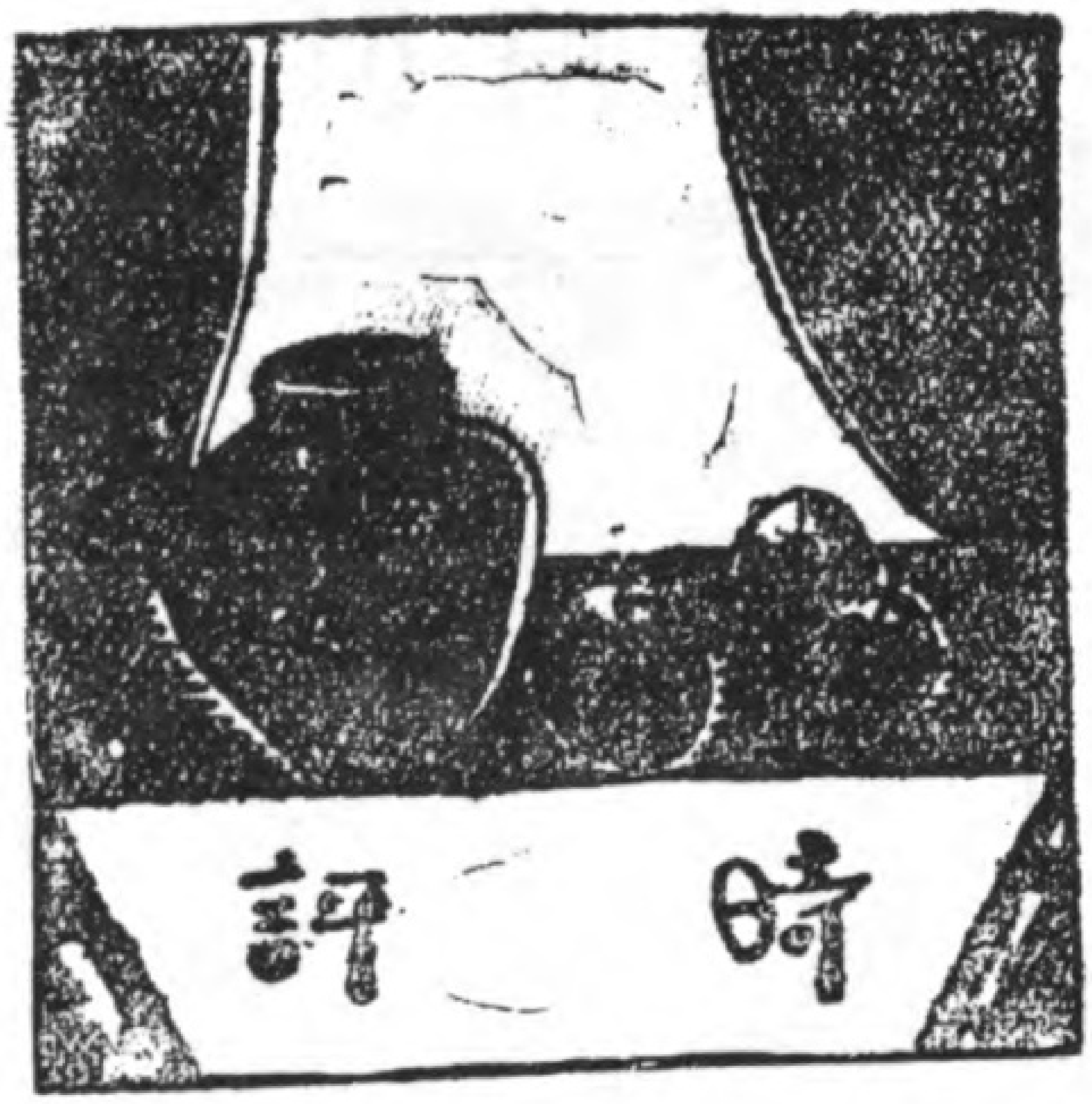
著者は逝けり!! 此の小説を遺して逝けり!!

著者の言葉 或る極端なる負け嫌ひの男堅田剛一を主人公とし、同じく負け嫌ひの梅子を女主人公とする。堅田は英國留學より歸朝するや梅子の戀を許して婚約をなすと同時に兩眼の明を失し、次で聾啞となり終に發音不能四肢不隨知覺鈍磨したる一肉塊となりても尚屈せず生きむ生きむと闘つたが、結局自力の賴む可らざるに絶望して悶死せんとするに至る。其の刹那梅子が懸命の至誠に依り或る神秘力の救助を得て身心一切を復活し世界の平和人類の幸福に向つて奮闘するといふ性情行徑を叙し尚是に配するに殆んど極端なる無抵抗主義の實行者土佐茂吉を以てし各長短相補ひ相助けて以て何れも大成するに至る。要するに眼目は强き男子が生きむとする努力と全く五官を失ひたる一肉塊的生活體の心理狀態を考察記述するに在り。何等の主義にも形式にも囚はるゝ所なく拘泥する處なく一切自由奔放的に筆を走らせたものである。

婦人運動

十月號





大日本女子青年團の成立

いよ〳〵男子青年團の向ふを張つて女子の青年團が成るさうである。新聞紙の報導に依ると、十月十日に東京日本青年會館で發團式をあげるらしい。

男子青年團が團員である青年諸君の意志にはおかまひなしに勝手に作り上げられてしまつて、さあ、團員になつた〳〵とお上から加入を強制されてゐるのと好一對に、これからは青年女子をも、女子青年團が出來た、團員になつたかと狩り立てやうといふのである何といふ時代錯誤な婦人團體の出現であらう。而もそれで、團員實に百五十萬！と威張らうといふのである。

然し頭數ばかり揃へたところで何にもならぬのである。男子青年團が團員總數三〇〇萬と號してゐるところで、今日果して何をしてゐるか。少數の物好きな青年中年の跳梁に任せて大多數の者は木偶（デク）のやうに右向け、左向けさせられてゐるばかりではないか。殊に青年團の反動化、軍國主義化のために×の威力さへ添へて一生懸命であるらしいにも拘らず、之れさへ成績は頗る上らず頭痛鉢巻の態と聞くのである。

今の若い人たちが意識的無意識的に持つてゐるところの驚くべき時代的な目ざめに對して大きな信頼を持つわれ〳〵は、彼らが何をしやうと、若い者には又おのづから若い者のゆく道があると、高をくくつてゐていゝのであるが、——殊に、全然團員たる婦人の意嚮に聞くことなしに天下（あまくだ）りにでつちあげられてしまふ女子の青年團が、今日の處女會以上に發展する事が出來るかそれさへ頗る怪しいと思ふのではあるが、然し、男子青年團と好一對の反動的女軍を編成するためにいろ〳〵高壓的な努力が試みられるであらうことはいふ迄もない。

かりに女子青年團の役員として竝べ上げられてゐる顏觸れをみても、反動意圖のあとがまことに露骨であり、今の化婦人團體としては當然に持たねばならぬ婦人としての特種的要求などについては、まるで一瞥の餘裕もなささうな面々ばかりである。

婦人は結束してこの女子青年團の上に働きかけやうとしてゐる反動勢力に對して猛烈な抗議運動を起さねばならぬ。

そして、進んでは、かういふ風にして全然團員である女子の意志を無視して勝手に成立させられる女子青年團の組織に抗ひ、婦人大衆の腹の底から成る要求を以て、眞正の婦人の團體を生

みあげるやうに努力すべきである。長い間、支配され、壓迫されるばかりがその生活であつた婦人としては、血と涙を以てしても鬪ひとらねばならぬものが非常に多いからである。

府縣會議員の選擧戰終る

いろ〳〵な意味で期待された府縣會議員の選擧がいよ〳〵新しい選擧法の普通選擧法に依つて行はれた。(普選と云つても名ばかりで、半數の婦人が除外されて行はれた事勿論である。二年以上同一市町村に住んでゐる二十五歳以上の男子に限られ、立候補した者は二百圓の供託金を積み、得票數が法定數に滿たなかつた者はこの二百圓也を沒收せられた。)

選擧の結果に依つて各黨派の勢力の上に現れた變化は次のやうである。

	舊勢力	新勢力	增減
政友	五七二	五六二	一一〇
民政	四五一	四八八	十三七
中立	一二三	一二〇	一三
實同	一〇	五	一五
革新	八	七	一一
無產	一	二六	十二五
合計			

中で最も目につく變化は、無產政黨に屬するものが、一躍して二十名をかちえてゐる事である。今度の府縣會の選擧は來春行はれる總選擧の準備戰として重要な意味をもつものであるだけに、無產政黨も既成政黨も共に大いに努めたが、民衆の政治的興味は漸く既政諸政黨同志の泥合戰、利權や地方政治屋達から離れて新生の無產政黨に多大の期待をつながうとしてゐる傾向をこゝにはつきりとみてとる事が出來るのである。たかゞ無產黨に！ と蔑視してゐた既成諸政黨も、侮ることの出來ぬ時代的なこの推移の前に、心ひそかに亡びゆく者の悲哀をしみ〳〵感じてゐるであらう事は、思つただけでも愉快でないか。

なほ、選擧に對して、日常の政治鬪爭を主張して直接の得票數は大した問題にしてゐなかつた勞働農民黨が、他の無產諸黨よりは遙かにぬきんでて多數の當選者を出したといふ事は、今後の政治運動の進むべき方向を暗示するものとして、三考の價値ある事と思ふ

早く婦人も堂々と男子と共に政治的活動に携る事が出來るやう、政治結社權の獲得のために努力しなければならず又常に無產政黨を支持鞭撻することを忘れてはならぬ。

なほ、初めての普通選擧の成績は意外に棄權率が多かつたと云はれるのであるが(京都大阪の大都市で五割强の棄權者があり、例の高柳淳之助に依つて買收の甘い汁をこつてり馳走せられた茨城縣のある地方の如きは、八割の棄權だつたといふでないか)これは、政治教育が未だ一般にゆき渡つてゐない憾みも多く、今のやうに腐敗墮落その極に達した政治界に對して有權者の中の少からぬ數に上るものが、あいそをつかしてボイコットした事も爭はれぬ原因であつたらう。

婦人參政權を要求して活動してゐる婦人の團體は一つならずあるにも拘らず單に知識階級の婦人ばかりでなく、日常の家庭的雜務におはれてゐる家婦にも、娘にも、その日常生活に於ける卑近な問題を通して政治的教育、政治的啓蒙運動を進めてゆくために努力してゐるものが現在非常に少ない事は、婦人として悲しむべきことである。敢へて、婦人政治運動の第一戰に立つ諸姉にこの悲みを告げたい。

吉岡女史の名譽毀損訴訟事件

新聞の傳へるところに依ると、吉岡彌生女史は某婦人雜誌八月號に揭げられた訪問記事に對して、名譽毀損の訴訟を起したといふことである。

これは單に一私人のことであるとして濟してしまへばそれ迄の事であるが現在のジャーナリズム、所謂俗にいふ三面種的の報導に依つて婦人の生活がどんなに恥しめられ、どんなに傷けられてゐるかといふ事を思へば、これは婦人として決して輕々に見のがすことの出來ぬ問題である。

男性の場合ならば、單に一つの笑話として默殺されてしまふやうなことでも、その婦人が社會的に知名であるといふ事にでもなれば、全然事實無根の牽强附會の僞りの報導さへ面白をかしく書きたてられ、云ひ傳へられるのが普通である。

これは何に依つてさうであるか。女子をいつも、男に比べて劣等な者として玩弄視してゆかうとする封建的な女性觀が多分に今の社會の人々の考へ方ものの見方になつてゐるといふ事實に依るのである。

又一方にはこのジャーナリズムは、それが女性であるといふ事の爲に甘やかし、ちやほやして、針小棒大的な記事に依つて一躍していはゆる有名な女になりたいといふ女性的な虛榮心をあふりたてるやうな多くの要素をも持つてゐるのである。

何れにしても、現在のジャーナリズムは、女性を女性として正しく認識させやうとせず、公正な立場からは遙かに遠い世界に置かれてゐる事を、われ〳〵婦人は考へてみる必要がある。そしてこの封建的女性觀と終始してゐる尨大なジャーナリズムの不正に對して常に鬪ふだけの使命を感じてゐなければならぬ。

近く辯護士法の改正に依つて、婦人も亦辯護士になれる時期がすでに近づいてゐる折柄、婦人自身がかういふ方面に於ける法の適用のために敢然として進んでほしいものと思ふ。

中等學校の入學試驗問題

年々、年中行事のやうに男女兒童の生活をおびやかしつゞけて來た中等學校入學試驗制度は、志願者が殖えると共に悲劇はます〳〵激しくなるばかりで試驗地獄といふ言葉さへ生まれるまでになつて來た。

文部省は遲そまきながらこの社會悲

劇に目をつけて、最近に至つて中等學校入學試驗制度撤廢の省案を發表した

その內容はこれを大略すると、現在の試驗制度の代りに簡易な口頭試驗と小學校時代の成績を參考にしてその上で抽籤に依らうといふのであるが、果してかういふ改正案で試驗地獄がなくなり得るであらうか、頗る疑問だと云はねばならぬ。

この省案に依れば、小學校長の內申といふ事が重要なこと柄になつてゐるのであるが、現在の試驗苦の代りに各小學校內で優秀成績をとらうとする競爭から兒童は如何にしてまぬがれるであらうか。又人物の考査にあたつても情實關係が公平に保たれると信じられるであらうか。

何れにしても、頭腦の良いもの金子のあるもの、運のいゝものだけが入學出來るといふだけで、それ以上の多數の者の求學心はどう解決つけられるのであるか。むしろ、入學試驗問題の根本問題はこの重要な點の解決にあるといはねばならぬのであるのに。

あらゆる兒童が、その望むがまゝの上級學校に入學して勉强する事が出來るやうになつてこそ初めて、試驗苦から兒童を救ふことが出來るのである。

單に外見上の形をどんなに變へてみた處で、收容すべき學校の數に限りがあり、而もその學校に、いろ〱等級や差別がある限り、限りもない多數兒童が、いゝ學校へ〱と希望する結果は、兒童は溢れて試驗地獄に陷ることを避けられぬである。

これは現在重大な社會問題である貧富の問題であると共に、敎育費の國庫大增額といふ根本問題にまで遡らなければならないのであるが、より一步進んだ立場から見落してはならない事實は、最近に發見された不就學兒童の步合率である。文部省の統計は一〇〇に對して〇、五八パーセントの不就學兒童と發表してゐたのであるが、壯丁檢査の動かすことの出來ぬ調査に依ると約一割であるといふ。これに依つてみても、わが國の兒童の多くが、如何に惠まれない學校敎育の下にあるかといふ事を考へるならば、一文部省の省令の如きものではどうする事も出來ない根本的な問題がそこにある事を思はずにはゐられない。

婦人政治運動の方向轉換

婦人の政治運動といへば、參政權要求！　と叫ぶのがたゞ一つあるばかりであるかのやうな觀があつた。婦選獲得同盟やその他これに類似の政治團體が「政黨關係に於ては絕對に中立」を標榜して、一途に參政權獲得のために進んでゐるのは、その立場に於てはそれが當然なのである。

然し、今や、公然と勞働農民黨を支持して立つ關東婦人同盟の成立を見、又、日本勞働農民黨を支持する全國婦人同盟が生れた。近い內に社會民衆黨支持の婦人同盟も生れるといふのである。婦人政治運動の方向轉換！　注目すべき現象である。

信州岡谷の製絲爭議

金子しげり

はしがき

今回信州岡谷に起つた勞働爭議は、日本の製絲工場に於ける最初の大爭議であつたと共に、その經過、及その結果は更に天下の耳目を聳てしむるに十二分なものがあつた。

一度でも中央線で同地方を過ぎた事のある人々は、諏訪湖畔に林立せる製絲工場の煙突を知つてゐるであらう。岡谷はその中心の町で、全く製絲工場にて作られた町であり、この町の大小工場に、製絲の仕事に從事する女工の數は實に六萬を算し、日本の製絲勞働者の問題は、あげて此地に蓄積して居るのであつた。

私は、昨秋國際勞働協會婦人勞働委員會の製絲女工調査の實地視察に加はつて、親しく同地の十數工場を觀たが、その勞働狀態の劣惡なる事、搾取の巧妙なるは、實に驚嘆に堪へないものがあつた。寔にこの世乍らの生地獄に喘ぐ可憐なる彼女等は、いつの世に救ひを得るかと思ふ程、當時はまだ勞働組合の運動など、その萌芽すら見出すのは難かつた。勿論この狀態で、いつまで資本家が高枕を續けられるかは、私共にも疑問であつたが、早晩來るべき日が、僅か一年にみたぬ今年の度に來やうとは、實は思ひも掛けなかつたのである。

一、爭議の經過概略

爭議は、八月二十八日山一林組千二百名の女工に依つて起された。

二十八日、同工場從業員千二百名よりなる總同盟全日本製絲勞働組合第十五支部は左記七ケ條の嘆願書を提出し、岡谷クラブに從業員大會を開いて、飽迄戰ふ事を決議し會社側の回答をまつたが、誠意ある回答を得られなかつた爲、廿九日聲明書を發表し、三十日午前十時より、千三百の全從業員の總罷業の火蓋は切つて落されたのである。

嘆　願　書

一、勞働組合加入の自由を認むること

二、組合員なるが故に轉勤或は勤務上の地位を低下せざること

三、組合員たるの故を以つて絕對に解雇せざること

四、組合員にして萬一不都合の行爲あるときは組合に通告すること

五、食糧及び衞生に對し改善すべきこと

六、體育、娛樂、修養の爲の諸設備をなすこと

七、賃銀の値上げをなすこと

この七ケ條の嘆願書の內容は、岡谷の製絲工場を知れる限の人々には、當然の要求、寧ろ穩當にすぎるものとすら觀られ、殊に第七項に對しては、同じ製絲家側に於ても、決して不當な要求でないと言はれた程であつて、縣當局にしても抽象的すぎるといつた位であつた。

然るに林組のそれに對する態度は、「五項以下の各項は從業員の幸福を增すもの故、希望に添ひたいと思ふが、如何にせん一より三の各項目は、工場の自主權を侵害するものであるから絕對に容れる事は出來ぬ。これを擁護する爲には、工場閉鎖も止むを得まい」といふのであつた。されば罷業斷行と共に、工場は、就業の勸誘に應ぜぬ女工には規定賃銀を精算の上斷然退場を迫る態度に出で、製絲家のトラストである製絲研究會も亦罷業に依る解雇職工は絕對に使用せぬ申合をなすなど、嘆願や要求を離れて、偏に組合運動否認に出でた爲これに對する爭議團の抗爭は爭議の焦點となり、飽くまで鬪ふ事を聲明して、寄宿舍に據り、總同盟の應援を得て絲量機の不正を告發する「暴虐なる林組を倒せ」の大旗を押し立てゝ大示威運動を行ふなど、双方互の秘策を盡して、持久戰に陷つた。

元來岡谷は、無警察の町と稱せらるゝ程、資本家の力は强大であつたが、今回も事態かうなるや、製絲業者は、團結して消防組、靑年訓練所員などを動員して爭議團威嚇の途に出

で、全町恰も戒嚴令下に在るが如き、物々しき光景を呈するに至つたが、遂に十二日、工場側は、午前八時限り食堂を閉鎖して、罷業職工の食糧を絶つの途に出で、更に同日午後、第一工場の五百餘名が罷業團の慰安活動寫眞會に赴いた留守に、工場閉鎖を斷行して了つた。

岡谷キネマには、前日已に前金を納めて豫約が出來てゐたにも不拘、當日に至つて爭議團の見物を拒み、種々の交渉も纒らず、止むなく一同が、折からの雨を侵して立歸つた所、工場の門といふ門は鎖され、入場を拒まれた爲に、五百の女工は、沛然たる霖雨の中に作業服一枚で濡れ鼠となつたのであるが、警察當局は、會社の門を警戒守衛するのみでこの非人道の擧を全く傍觀したから、爭議團では代表を警察に送り交渉したけれども、遂に意を得ず、反つて暴行檢束にあひ、女工は止むなく『母の家』に收容して急に處した。

『母の家』は、岡谷町に唯一つ存在せる女工保護の機關で、純然たる社會事業である。六萬の女工の爲に、資本家側が何一つの修養娛樂、慰安の設備もない土地に於て、可憐な女工のクラブともなり、學校ともなり、更に／＼彼女等の守られざる貞操の爲に唯一の保護機關となり來つた『母の家』は、勿論、爭議團とは何等關係はなかつたけれども、今や問題は爭議をはなれて、人道問題となつた爲に、經營者高濱夫妻は敢然起つて、三百名を收容し、濡れ鼠の彼女等の爲に、食を給し眠に就かしめたのであつたが、血迷へる岡谷の町は、『母の家』を爭議團の延長と見做し、食糧の購入、寢具食器の供給を妨害、拒絶し、近所の貸家をも封印して貸さざるの態を盡した。從つて會社側が引つゞいて第二工場二百名の女工を脅迫歸鄕せしめ、更に第三工場三百名を逐はんとした爲に母の家指して引き上げ來つた三百名は、遂に岡谷の町內に身を容るゝ所なく、やうやく下諏訪驛前の貸家を得て、分宿したのであつた。

白晝公然と行はれたこの殘虐極はまる女工追放に對して、爭議團では刑法二百十二條に該當する遺棄罪なりとして林組を告發したが、これに對しては流石の資本家側にも林組の態度を暗に批難するもの多く、爭議は益々惡化するに至つた。

二、實狀視察の一班

自分は『母の家』後援會員の一人として、『母の家』に收容した女工五百名の慰問の爲に、十四日夜同地に向つて出發し

た。

十五日朝岡谷驛頭に立てば、爽かな秋日の下に、數十名の女工は、輝いた面に笑みかたむけて、自分を迎へてくれた。旬日に近い苦鬪にさぞやと思つたのに、彼女等は疲れる處か欣々然として、私を擁し、初對面ではあり乍ら、問へば明快な答をしてくれた。彼女等に圍繞せられて、驛から一丁餘の『母の家』までゆく間に、私は物々しい制服姿の靑年訓練所兵や、消防隊に出あつた。彼等は肩をそびやかし、胸を張つて往來を濶歩し、女工連を威嚇する樣な態度を明かに示してゐた。

『母の家』に至れば文字通り、家の內外は黑い作業服の女工姿で充ち溢れ、折からの快晴を、秋草亂るゝ庭先に、お手玉遊びに餘念ない一團もあつた。それに比して戶外には昨日やつと取拂はれた消防組や警官の屯所の後がもの〳〵しげに見られた。

『母の家』の高濱夫妻から事件發生以來の話を聞く間もなく私は引き續いて來訪する警官や資本家に驚かされた。『母の家』では警官の壓迫や資本家の暴虐の中で三百人の炊事にも糞尿の始末にも困じ果てゝゐた。男子の入用に、爭議團員を使用したといつて官憲の抗議を喰ひ、他の人手一切を町から拒絕され、錢湯の入浴にも、食糧の購入にも、爭議團に非ざる聲明を承認せしめた上でなくては、一切運ばない不法さを當事者は、私に泣いて訴へた。收容女工は結びめしを手摑みで食ひ、着たまゝで一枚のふとんに三四人もごろねの、恰も大震災當時の慘狀であつたがそれ以上一寸どうも出來ないとの事であつた。織る樣に來る警官から、私は直接に收容女工の衞生狀態や、風紀取締に關する、決して親切とは響かないむしろあらさがし的な言動を見聞した。

持久戰に入つた。女工等の結束の固さは、實際に接して更に驚嘆に値するものがあつた。姉妹で來てゐるものは二人分の孝行をいひふくめて、幼妹を歸鄕せしめて姉が最後まで居殘つてゐるのが多かつた。資本家側は巧妙に手を廻して、歸鄕を勸誘してゐた。

『母の家』が爭議團の延長にならぬ旨の聲明書を發した爲に彼等は自ら出馬して女工の歸鄕方につき、依賴やら懇願やら威嚇やらをしてゐるのであつた。中にはニセの親を作り、刑事を介して、引取方を申出るものもあつたりしたのが、偶然本物の親が來合せて、分明した樣な驚くべき事實もあつた。

更に、下諏訪に於ける分宿壓迫の樣子こそ言語同斷であつた。自分は約三十時間の滯在中に、下諏訪から彼女等を追放せん爲に、岡谷の資本家が死力を盡して警官の力を藉り、下諏訪町民をそゝのかした事を實際に見聞した。

それでも、彼女等は死守するといつた。十六日の朝、歸京の途につく私を見送りに來た女工は、驛頭で改めて誓つた。『死んでもやります。』と。

三、爭議の結果

然るに十七日、東京に於て、母の家後援會主催の下に、協議會の開かれるに先きだち『母の家』よりの來電は何を私たちに傳へたのであつたらう。嗚呼後援會から急據發送した八百冊の雜誌、二百枚の毛布も着かぬ內に、爭議團本部總檢束女工の强制歸郷、昨十六日には岡谷に三百、下諏訪に二百の女工は、確かに收容されてゐたのに、一日たつた十七日には『母の家』に僅か十名の決死の覺悟で踏み止まるものあるのみの急轉直下なのであつた。

爭議團は官憲の手で切崩された。然も世に傳へらるゝ所では彼等は夜逃げをした、折角吾れらのとるべき待遇改善の要求も、組合擴張の總同盟の指導方法に徒らに惑はされて、遂に八百の女工は犧牲になつたと。

果して事實はさうであらうか。

五、結　尾

私は、總同盟とは何の關係もないものである。たゞ婦人の立場より、私は悲慘なる岡谷六萬の製絲女工の勞働狀態の改善を切に望んでゐるものである。

その私の眼に映つた事實は、決して無責任なのは總同盟ではなかつた。爭議團本部の男子ではなかつた。

私は敢てこの責任を、官憲に問いたいものである。縣當局に問ひたいものである。

最初、糧道を絕つた時に、當局は已にこの事在るを知つてゐたといふ事を、私は當局者から聞いてゐる。彼等の一人は私に語つた。『今度の事で、女工保護を警察がやらなかつたといふそしりを受けるのは心外だ。我々は工場に糧食を絕つの企圖あるを知つてゐて、實は決行を思ひ止まらせやうとしたのだが、遂に力が及ばなかつたので、とにかく數日でもそれを延期させた誠意を認められたい。』と。

私は徒らに言を連ねてこの批判をするのをさけやう。事實こそは最も雄辯であらうから。

とにかくこの當局なのである。いくら女工代表が內務省の社會局に出頭しやうとも、效果のあるべき筈もない。眞僞はとはず、林組の支配人が小川平吉氏の選擧總長であり、岡谷が山岡警保局長の出身地である以上、政友會內閣の今日、爭議は初めから慘敗にきまつてゐるのだとか。

政友會が何か、小川鐵相が何か、爭議の時機の熟不熟が何か、一度魂に火を點ぜられた、被壓迫者、被搾取者である此世ながらの活地獄に浮沈してゐた彼女等製絲女工が、決然と起つに、何の猶豫が、躊躇が、左顧右眄があつたらう。

爭議は將に慘敗した。保護の名の下に檢束せられ、强制的に歸鄕せらるゝとき彼女等は號泣しゝいつたといふ。「口惜しい。警察の前で首をくゝつて死んでやらう。」と。

げに林組に起つた爭議は一林組の爭議ではなかつた。さればこそ岡谷の製絲業家は擧つて林組を支持し、當局亦一途彈壓に出でたのであつたが、今回の爭議が彼等の欲した如く爭議團の慘敗に終り得たとはいへ、それは、現在の製絲業にとつて何程の安堵を取戾し得るものであらうか。

流石に彼等もひそかに待遇改善に着しつゝあるらしい。他工場に於て、その實は着々現はれつゝある。

「私共は例へ犧牲になつても、他の工場の方々の爲に少しでもなれば嬉しい。」

感謝狀を手にして、爭議女工は泪に咽んでゐたのを私は目擊した。

此度の慘敗が、今後の何になるかを、私は刮目して待ちたく、待つて貰ひたく思ふものである。(匆々の際の執筆意に任せず、他日補稿の機在らん事を望みつゝ。)

(一九二七、九、二六)

イギリスの婦人消費組合運動

—わかくさ—

×

世界で一番早くから消費組合運動が初められたのは英國であつた。從つて同國では、早くから婦人もこの運動に參加していろいろ活動してゐる。英國産業組合婦人協會といふのがこの消費組合婦人の結合から成るもので既に四十年の歴史をもつてゐ、現在全國に亘つて支部をもつてゐる。この協會は階級的色彩は餘り持つてゐないが、その目的とする處は、

婦人を模範的な消費者に育てあげ、同時に、

主婦として、母性として滿足な地位にまで引上げてゆかうとするのである從つてその事業も非常に實際的で主婦の日常生活の經驗を主にし、その上で活動を進めてゐるから、一般の勞働階級婦人の間にも理解をもつ者、共鳴者をどんどん多く持つやうに發展してゐる。

その綱領は、

一、消費組合及び公生活に於て、全ての點で男子に劣らないだけの智識と實質を婦人組合員に與へる

二、勞働階級の婦人が産業組合やその他の問題について、つねにその要求や意見を發表することに努め又、その意見を實行するための機關となる

三、一般の婦人に消費組合の仕事に興味をもたせ、進んでいろいろな會合にも出席するやう奬勵すること

×

英國の消費組合婦人が組合運動に參加するためには、産業組合婦人協會のやうな全國的な團體の統一的指導方針の下に活動する事は最も良策であるのであるから、消費組合に關係する婦人の全てをこの婦人協會に組織しやうと努めてゐる。そして實際婦人協會は、組合運動を目的とする諸種の團體と協同して合同委員會を組織し、その主義主張の發表をすると共に、一般消費組合運動とつねに歩調を一つにして進んでゐる。一九二一年に英國全體に亘つて組合出資金增加の運動が行はれたとき、婦人協會は卸賣組合、中央會及び地方組合と協力して大いに成績をあげ政治方面の活動についても、消費組合黨及び消費組合男子協會と合同委員會を作つて、勞働黨と協力してその政治的立場を建設するために努めてゐる。

×

この婦人協會は他のどの團體にも所屬してゐない獨立のものであるだけに

財政的には困難なことも多いわけであるが、協會員はよくその目的の實現のために協力して資金調達の必要のある場合には進んで多少なり醵金するといふ有様である。又、教育と宣傳のためにはつねに努力し、理論と實際と兩方面から活動を進めてゐるので發展のあと著しいものがある。

必要な講師は會員の中から養成し、協會の役員の教育のためには特別の講習會を行ふ。又、隨時一日學校或ひは二日學校といふのを開いて、各支部より會員を集めて二回或ひは四回の講演をし、そのあとでは討論に移つて、最後に食事を共にして親しみ合ふ。會員相互にその家庭に宿泊して友情を深める場合もある。

×

各支部は一週（又は二週）に一回集つて中央委員の指導方針に基づいて活動方針を定め、又、毎年ある特定の問題を捉へてそれのために運動を集注する。――例へば一九〇八――一九一二年間には、消費組合の仕事に從事してゐる婦人勞働者のために、最低賃銀制を實施するために、運動し、つひに卸賣組合及地方組合がそれを採用するやうになつた。或は勞働組合と協力して罷業資金を作るべきことを主張し、一九二一年頃には國際的な消費組合運動を起すために熱中したなど。

×

なほ、婦人協會が公的生活に於ける婦人の重要問題として取扱つて來たものは頗る多いが、その重なるものは、既婚勞働婦人の地位改善、住宅問題、母性保護、婦人參政權、離婚法の改正食糧問題、小學校兒童の保健問題等々で、これらは全て各支部で研究して、その結果、政府に代表者を送り、議會に決議を送り、地方當局に訴へる等あらゆる手段をつくすのである。

婦人協會は毎年六月、順次に各大都市で總會を開くのであるが、支部代表者の大部分は家庭の主婦で、中々盛大である。こんなにも澤山の家庭婦人が熱心に出席してゐるのをみるだけでも如何に英國の婦人が、家庭生活の改善消費經濟についていろいろ知らう、學ばう、働かう、としてゐるか、よくうかがはれるのである。

消費組合婦人部第四回研究會

十月十七日（月）夕正六時より

東京共働社にて
（小石川區諏訪町三七・市電大曲下車牛天神前　電話小石川三二六子番）

原口健三氏
ロシヤの消費組合の話

笠原千鶴氏
岐阜縣　笠松村に行はれてゐる共同炊事組合觀察談

◎どなたでも誘ひ合はせてお出で下さい。（婦人に限る）

靜かな日に

高群逸枝

わがひそかに親しみをもつ人々、世界的に沈默す。そは迫害の念である故に。サツコ、ヴアンセツチいさゝか氣を吐きたりといへども、そは死んで氣を吐きしなり。かゝる折、歌こそよけれ。この歌に早い頃、虐げられしかの國のそれらの人々をしのびて作りし歌なり。

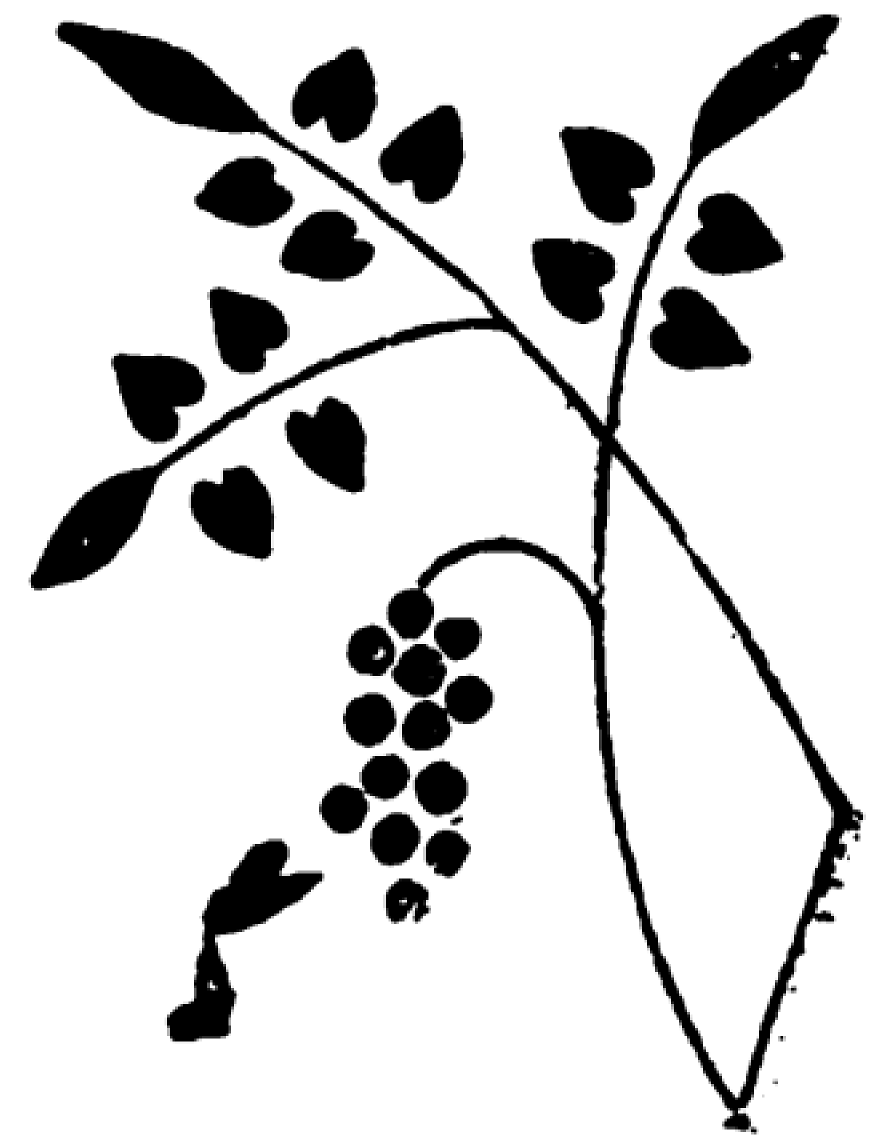
露西亞なる
ステパンさまは
わたしと云ふ子

御存じがない

わたしと云ふ子
ものずきで
お前さんのお名の
ステパンさんに惚れました

お前さんは森の曲り角
きれいな窓においでなさる
過激派兵士の鐵砲の玉が
そこでそれたら花の墓

花の墓にはイワンさま
けふもまたきて寝てござる
村のサシユカがくるなれど
神さまかけて大の字に



心の漫歩

奥榮一

秋が來た。軒と軒との間の三坪に足らぬ私の庭にも。

　あるかなきか我が小庭邊に靑々と薄は萠えて夏は來にけり

と嘗て私か口號んだ一株の薄にも、日に日に衰へが見え初めた。朝夕うすら寒い風が吹き初めた此頃になつて、やつと蚊釣草ほどの小さな銀色の穗をつけた。

　朝夕にあ子が水やる蜀黍のあ子が背ほどに伸びにけるかな

と詠んだ玉蜀黍は、一握にも足らない程の實をつけた丈けで、今ではもう一人で立つてゐる事も出來ない程、莖も葉も老さらばえた老人のやうに、黃褐色に縮み上つてしまつた。

　あるかなき小庭にあれば尺ほどに伸びて花咲く向白葵の花

私が戯れに、一寸法師の女王と呼んだその向日葵の花は、もう影も形もなくなつてしまつた。

周章しいこの七八年の借家生活に、幾度となくあつち、こつちと持つ廻つた一株の萩だけが、隣の塀際に押しつけられて、葉末のあしこ、こゝに申譯けのやうに花をつけてゐる。無理もない、それは庭と云ふのも可笑しい程、立込んで家と家との間の、風通しの惡い、緣に陽さへも當らない處だもの。

だが私は知つてゐる。彼女達がこの惠まれない自然の一隅で、せい一つぱい勇敢に、健氣に、自然の意志を意志として生きて來た事を、彼女達があの燒きつくやうな眞夏の幾十日を、その豐かな、そのなごやかな心で、唯一の隣人である私にほゝ笑みつゞけて來た事を。

さうして、私は今彼女達がこの唯一の隣人に

「さよなら」

『さよなら』

と口々に云つてゐる聲なき聲を感じる。靜かに寂しく、然も大地の愛(いつくしみ)を信じきつた安らかな心で。

『さよなら』

私の心は、浸み透るやうなうすら寒い秋風の中で、誰にも知れないやうに、そつと帽子を振つてゐる。

人生への門出とも云ふべき、青年期に於ける私の最初の念願は、一人の乞食坊主として生きて行く事であつた。其後二十年近い歳月を、私はこの念願を心の片隅に封じ込んだまゝ、人生の袋町(ふくろまち)を、窮乏の裏町を歩きつゞけて來た。

私は今何處へ行かうとしてゐるのだ。

凡ゆるものが貨幣價値で換算され、二二が四を二二が六に通用させやうとする商業主義(コンマーシャリズム)のトリツク、社會的僞瞞の世界に住んで。私は何を賣らうと云ふのだ。

西行か、一茶か、良寛か、桃水か、いや、私の天分はそれらの人に比すべく、餘り小さい事は云ふまでもない。私の云はふとするのは、路傍の草のやうに生きてゐる一無名の西行だ、一無名の良寛だ。さうして、私の心は私達の手近い處に差延べられてゐる一燈園の生活に打突つて、一寸立ち停る。

懺悔の生活、求むる處なき奉仕の生活、持つ處なき無一物の生活、私は時折今一歩で私の心が、其中へ歩いて行きさうなものを感じる。

が私は眼を開ける。其處には私達貧しい者を押潰さうとして、飽く事なき貪婪(どんらん)の持主、キヤプタリズムの巨大な重壓機が刻々に下りて來るではないか。

己を空うして、結縁の衆生に奉げる事が、結極、この重壓機を貧しき者の上に加へる爲の、一握の石炭を投げる事にはなりはしないか。

私の心は慄然として、私に相應しい小さな鶴嘴を探さうとしてゐる。この重壓機の土臺石を堀崩す爲めに。

秋になると、私はよく思ひます。もう十數年前に見た蟷螂と猫の喜悲劇を。

其頃、私は或金持の息子の家に寄宿してゐた。其男が金を出して、私が勞力を提供して、私達は或小さな、でも社會的

な仕事をやりかけてゐた。

私の後にも、その男の後にも、丁寧に袴を佩いた犬が喰付いていた時分の事である。

私達は或日、一寸した事から烈しい議論を始めた。それは私がその男の愛用してゐる高價な金口の煙草を、私自身が與へられてゐる朝日の代りに、平氣で喫つた事からである。

其男は――

『君自身が大して嗜好もないのに、僕自身にとつては非常な嗜好品であるものを、同じやうに嗜む事は面白くない』と云ふのである。

私は嚇つとなつた。私は私自身だけでない憤を感じた。私はその男のブルジョア的優越感に激しく打突つていつた。

私達はそれから幾時間の間を激しく論じ合つた。

と、その中に私は、ふと一面に陽の當つた椽側で、一匹の蟷螂と猫とが互に睨み合つてゐるのに氣が付いた。

猫は例の隱險な様子で、狙ひをつけながらじり〳〵と詰め寄つて行く。と、蟷螂は、敏感そのものゝやうな奇怪な三角の首をきつと立てゝ、猫が一歩動く度に、あの巨大な鎌を颯つと振冠る、と猫はその度に、一寸怯かされるらしく、身じろぎをする。

それは相方とも全神經を張らせた、凄い戰だ。兩方の間は次第に近づいて行く。

私達はその間にも激しい議論を續けてゐた。

と不意に、猫の身體が恐しい敏捷さで、跳ねたかと思ふと蟷螂の身體はすつぽりと、猫の口の中へ飛び込んでしまつた

私達は互に顏を見合せて、急に笑ひだした、涙の出る程。

猫はからりと晴れた秋の陽を浴びて、悠々と背伸びをしながら庭の上を歩いて行く。

私は秋になつて、あの妙に人なつこい陽の光が、椽側一面に差す頃になると、いつも、この十幾年か前の喜悲劇を思ひ出す。

A『男女の性的索引の形式は我々が望むやうな未來の社會に於ても、餘り變らないでせうか』

B『變らないと云へば變らないし、變ると云へば隨分變るでせう。現在の兩性間の性的索引力は必然的に現在の經濟組織に左右されてゐます。性的扶養者、性的寄生者、支配者、被

支配者、と云ふやうな、二つの立場に非常に影響されてゐます。

女性にとつて大きな魅力である、男らしさ、頼もしさ、男性美。男性にとつての大きな魅力である、女らしさ、美くしさ、しほらしさ、それ等のものを仔細に吟味して見るなれば、現在の經濟的隷屬關係が如何に大きく働いてゐるかと云ふ事が解るでせう。

私の豫想しますには、此男女の經濟的隷屬關係のなくなつた未來の社會では、兩性の索引力の樣式は、現在に比して、遙かに雜多性（バラエテイ）を帶びて來るでせう。遙かに多角的なものとなるだらうと思ふのです。つまり、その個性に根ざしたいろんな方面の要求に裏付けられるだらうと思ひます。さうして、さうした接觸によつて一つの個と個とが、遙か純粹に、僞や嘘のない世界で、自由に結びつけられるだらうと思ひます」

A『將來の社會に於ては、現在のやうな個人的な臺所がなくなつて、共同の炊事場、共同の食堂、共同の洗濯場を有つやうになると云ふベーベルなどの考へについては、どう御考へですか。」

B『それは現在、婦人が餘儀なくされた厨房の生活に依つて、どんなに人間としての成長を阻害されてゐるかと云ふ事を考へれば、當然の事でせう。人爲的なトリツクに依つて阻害され乍らも、進化の過程はランプが電燈になり井戸が水道になると云つた風に、現在でも其過程を辿つてゐると思ひます。だが私が思ふには、家庭が社會化された未來の社會でも、例へば藝術家がその創作に沒頭するやうに、強制されたものでなく、愛する者の爲めに、時折、或は或種の婦人がその厨房の生活に專念する生活が、あるのが本當でないだらうか。さうしてそれは立派に彼女の藝術として認められていゝ、つまり、獨立した勞働婦人としての價値が立派に認められるやうに、家庭の雜務――無論それは現在よりも遙かに輕減され、その分擔者として男子もあづかる事は無論ですが――に携る婦人の仕事も立派に價値が認められていゝと思ひます。

A『將來の社會では今のやうな家庭なんかは、なくなりはしないかと云ふ人がありますが、どうでせう」

B『さあ、それは考へ方でせう。少くともその型に大きな變化がある事は事實でせう。先づ現在のやうに生活の爲めに餘儀なくされた、或は世間の手前見えなどゝ云ふものゝ爲に、餘儀なくされた結婚生活は次第に少くなるでせう。さうして

結婚生活だけが男女關係の唯一の型式ではなくなるでせう。亦た結婚の場合でも共は個人契約だけの事になりはしないでせうかね。たゞいかなる社會でも、進化した人類は純粹な眞實のある男女間の結合を好むものです。だから現在よりも遙かに嘘のない、純潔な結合による家庭生活が立派に存在するだらうと思ひます。それは一方が他を所有、支配——そんな事は實は强制といふ僞瞞で出來でゐるトリックなんですが——といふやうな生活でなく。互に捧げ合ふ生活です。夫婦の場合でも親子の場合でも、社會全體の人事關係がそうならなくては嘘です。これは餘談になりますが、今でもよく男女間の事に獨占とか、征服とか云ふ言葉が多く用ひられますが、形の上だけでその貞操を强制してゐれば、或は女の肉體に偏れた事によつて征服し得たなど考へるのは餘りにも御目出度い、舊式の英雄主義ぢやありませんか。

男女の相方が純粹の愛情だけで結び付いてゐれば、獨占とか征服など云ふ肩肘張つたものはいらない筈です。處でどつちもその純粹の氣持で一生一緒に行けるならそれはいゝ事だが、一方の心が離れて行つた場合、無理に世の中の規約で引張つて置くと云ふ事は却つて、純粹の結婚生活を汚すものではないでせうか。尤も過失と云ふ事はありますね、それを許す許さぬは當事者間の愛の問題です。

私の考では夫婦親子は、つまり廣い世界の中でめぐり合つた一番近い處に座つた有緣の同行衆だ、それだけでいゝんだと思ひます。尤もさうした氣持になるには、人間は聰明な叡智を要しますがね。

何、私自身はつて。はつはつ、さうなりたいと念願してゐる丈けですよ。

私は英雄主義（ヒロイヅム）と云ふものが嫌だ。いや英雄主義を何よりも憎むと云つた方がいゝやうだ。

英雄主義は人類が最初に迷ひ込んだ袋町だ。人間が最初に誑かされた邪道だ。人類の歷史は英雄主義の殘虐史だ、英雄主義の迫害史だ。古來人間の救濟を叫んで立つた凡ゆる宗敎が英雄主義に魅せられて、大きな伽藍の中で枯渇してゐるではないか。遠い希臘や羅馬帝國まで溯らなくてもいゝ。近い歷史について見ても、自由と平等を合言葉として生れたフランス革命も、英雄主義に翻弄されて、それ自身ギロチンの露

と消えたではないか。個人の自由と獨立を旗印として生れた近代文明が英雄主義に憑かれて、資本主義の貪婪地獄、饑饉地獄を眼の前で演じてゐるではないか。自然の意志を意志として、人類進化の必然的過程を辿る現在のプロレタリア運動が、英雄主義の惡戲に禍されてゐないとは誰が云ひ得やう。

人間が人間を支配しやうとする心

人間が人間を征服しやうとする心

人間が人間を所有しやうとする心

大地は性懲りもない人類の迷妄に大口を開けて笑つてる。

私は英雄主義を惡むと同樣に、人類の今一つの因襲、俗人主義を憎む、それは英雄主義に人間の魂を賣つた外道だ。道化だ、小惡魔だ。出來合人間だ。

人間の歴史は英雄主義と、俗人主義に完膚なき迄に汚されて來た。

人間は一つの眞純な個であればいゝ、一の個以上のものでも、個以下のものでもない。人體を構成する細胞は、細胞以上のものでも、以下のものでもない。人間は社會を構成する細胞だ。それ以上のものでも、以下のものでもない。

小供は生きて行く。人類が辿つた進化の跡を、如實に、蛇の如く這ひ、犬の如く歩き、猿の如く木に登り。蠻人の如く棒切れを持つて爭ふ。だが大人は這つたり、四つ足で歩かされては堪らない。

英雄主義を人類が遠き過去に辿つた過去の現象として、天眞爛漫な小供の遊びの世界だけに停まして欲しいものだ。

おや餘り書いてゐると私の筆に迄、英雄主義か乘移つて來さうだ。桑原、桑原。

自分のこと

眞杉靜枝

戸外は細い秋雨にぬれて、部屋の隅々から夕闇がはいのびる。

私は今筆をとれば、悪口を云はれた云ひわけをしそうだ。彼等の濁つた認識不足の悩み、そこでは、どんな女だつて妖婦にみえ、毒婦にみえるにちがひない。私は過去に於いて、それらの毒婦や妖婦の相手にして丁度相應しい様な男を澤山みた。彼等の頭は濁りくもつてゐて、ものゝ美を認識する事が出來ない。彼等の心には、人生のごみ捨て場を漁る様な下等な要求しかない。彼らは職業婦人をとりまいて、妖婦や毒婦の型にはめる意志しか持つてはゐない。そを云ふ意志ばかりの中であしかけ五年も生きてゐた私は、近頃の生活の雰意氣を、感泣せずに、悦ばずにおれるであらうか。心の清い、美しい優しい女であり度い。そを云ふ願ひを自から持ち得る様になつた私の近頃は、私にそう云ふ願ひを持たせずにはおかない意志の中に包まれてゐるからである。

父や母に泥棒になる事をのぞまれた子供はおそらく泥棒に近い人間になるにちがひない。賢い父母の正しい愛から出た願ひで、子供の上に清い美しい魂をのぞまれたら、その子供の魂は清まらずにはおれないであらう。還境から求められる力の偉大さを近頃私はあまりにはつきり知らされた。

近頃、鏡をみて、私は驚いた。私には到底似合はないときめてゐたうす桃色の半襟が、私の襟元に、いつの間にか、にほわしくみえる様になつてゐた。心に武装の必要だつた婦人記者時代の私には、黒色の半襟しかうつらなかつた。その黒色の襟元を思切つて引詰めかげんに着物を着て、それもあらい棒縞か何かの着物を、好んだ私は、そして始終闘士の様な一方うすつぺらな感じを氣取つてあるいてゐた様に思ふ。

心の持ち方は、よそほひの上に斯くも現はれるものであるかを、近頃私の驚いた發見である。

正しく清い心を持つて、毎日新しい勇氣で仕事をしてゐさへすれば、今の私の生活には毛程の危險もない。誰れ一人私を瞞し傷つける憂ひはない。淡々と暮し、元氣に進む事が出來る。此の雰意氣の中では、心がやわらげられずにはゐない

人を瞞す様に出來てゐる社會へ行けば、私は、どうしても瞞される。あまり利口な話ではないが、瞞す人に比べて善良かと思ふ。瞞す方の人は、どんないゝ世界が來ても救はれないにちがいない。彼らは女を見れば毒婦妖婦にみえる様に、どんな華やかしい時代へ來ても、光りをみる事は可能ないであらう。

他人の幸福を呪ふ位ひ、ケチな貧しい姿はないと思ふ。呪

はれる幸福者の立場からみて、人の幸福に呪ひをかけねばならぬ、貧しい心の持ち主は實にあはれむべきである。日本人にはそれが殊に甚だしいと云ふ事である。日本の生活がそれ丈けせち辛く出來てゐるのでは無いかと思ふ。皆が平等に悦び、出來る事なら平等に働らき、そこ迄行けない迄も、悦び丈けでも行き渡る社會が來たら、他人の幸福を呪ふおせつかいはなくなるにちがひない。その小さい一歩として、金持の藏の中で、カビがつきかけてゐる高價な美術品を、開放してもつと平易な美術館などを澤山こしらへる事も、いゝ事と思ふ。皆の心が、高尙なところで溶け合ひさへすれば、やきもちをやく事の恥を一人でに知る樣になるにちがひない。

一方では、日本の人たちは、今一歩と云ふところ迄來てゐて、一つの古い道德にとらはれてゐるのでは無いかと思ふ。皆は自分の本音か何であるか、自分の本然の進路はどこであるかを自覺しながら、ある一つの垣にしきられて、そこで不精不正に立ち止らされてゐる傾きがある。それ故、たまに、そこをおどりこへ、天氣な正しい本來の世界へ突き進まうとする人があると、自分らの本音をそつちのけにして、垣を越へた人を、ねたみ半分にそしるのである。（何だかまずいかき方だと思ふ）その道德を破つたら、社會は目茶苦茶で、犧牲者が澤山出來る、と誰れかゞ云ふかもしれない。犧牲者を出さねば幸福になれない人は、幸福になる資格の無い人、或は進み方をあやまつてゐる人では無いかと私は思ふ。

人は誰れも滿足の百點をのぞんで、九十九點のところでひかへてゐれば、萬人がそれを守つたら、犧牲者はすくないのでは無いかと思ふ。それが自由に生きる人の持つべき新しい道德の一つではないかと思ふ。（九、廿七）

讀み進んでゐる內に淚がにぢみ出るやうな嬉しいお手紙を、始終、あちこちの讀者諸姉から貰ひます。忙しいまゝにさういふお手紙に對してさへ、返事を書かれないで、そのまゝになつたりする事が多いことは、何よりかうして忙しく暮してゐる自分の身の上を悲しませます。

いくら忙しい人生だからと云つて、私達はゆつくり氣の合つたお友達と遊びたい、そして、おなじ樣な心持ちでゐるお友達同志でゆつくり、電話をかけ合つたり、手紙を書き合つたりして交つてゐたい。世にお友達同志の深い交りほど、私たちを勇氣づけ、喜ばせ感激させ、天眞にさせてくれるものはないのに。

みなさんと、一緒に遊びませう。話し合ひませう。私もせいぜいこれからはおたよりを書きたいと思ひます。私たちの 交りを始めませう。（むめお）

婦人辯護士

婦人辯護士制度設置に就ては、過般來各婦人團體が大部努力して來た。

それが具體案としては、本年の第五十二議會に婦人團體の手で、現辯護士法中第二條第一項の『日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト』の條文を改めて、其條文中より『男子』の二字を削除するやう請願運動をなした。此運動は請願委員會で時宜に適するものとして採擇され、辯護士法改正案中の重要なる一項目に加へられて審議されることになつたので、婦人の有識階級では今回の辯護士法改正案に大いに注目してゐた。

ところが愈々去る九月七日辯護士法改正調査小委員會に於て、婦人辯護士制度設置の條項に賛意を表することになつた。即ち、

一、女辯護士採用の制を認むること

やがて之が委員總會に附議決定の上司法大臣に答申の手順を經て、來議會に法律案として提出、可決されるば、多年有識婦人階級が嘱望してゐた婦人辯護士制度が認容されて、婦人も辯護士たるの資格を獲得し、婦人職業の範圍が更に開拓されることになるのである。然しこれを諸外國の情勢に比較するに、今更婦人辯護士制度を云々するが如きは、彼れより遲るゝこと五十年の恨みなき能はずである。

人も知る米國に於ては、最早や婦人辯護士はもとより、判檢事、陪審員、代議士さては市長の如き要職に婦人階級がドンドン侵潤して、公私の論なく社會政策上の仕事は虐待防止會にしろ家事審判所にしろ、婦人の方が主要人物の地位にあつて誠に立派な實績を擧げてゐるし、陪審員の如きも男子より女子の數の方が多いと云ふ狀態である我國より遙に秩序の亂れてゐる支那に於てさへ、既に婦人辯護士の出現ありシヤートルには女市長あるに不拘、世界の五大强國を誇る我國が今頃やうやく世界の大勢に目醒めて、婦人辯護士制度設置を云々するが如きは、時勢に晩るゝも甚しとの感なき能はずである

何故斯く婦人を無能力視せねばならぬのであらうか、果して我國の婦人の能力が諸外國の婦人に比較して著しく劣つてゐるのであらうか、否々、斷じて否。

今日漸く輿論の喚起に因て、婦人に關する問題は、婦人の理解力、婦人の推理判斷力を適用するが公正であるとの說が用ひられ、先づ婦人辯護士制度なるものが問題視せられ、公私の各大學法學部も之が對策を攻究せねばならぬ時機に到來した。とは云へ、之而已にとは尙九牛の一毛にして、更に婦人の權利を完全に擁護する爲には、婦人の判事、婦人の陪審員、婦人代議士の制度まで伸長しなければ、眞に徹底せる政治上、法律上、社會政策上の效果は擧げ得ないであらう。

（開地敏子）



旅で見たこと

生田春月

震災の年の初夏であつたと思ふ。加賀の山代温泉に行つた時の事である。中央の廣場には總湯があつて、それを圍んで宿屋がずつと並んでゐるのが、古風でおもしろく、ピアッツア・デル何とかとでも云ひたいやうな氣もちが、一瞬おこつた。

ところで、その總湯を隔てた差向ひの大きい宿では、どうしたわけか、家の入口に紫の幔幕を張り渡して、日の丸の旗などを立てゝゐた。宮樣でもおいでになつてるのであらうかと思つて、給仕に出た女中に訊いてみると、時の陸相のY大將が泊つてゐるのだと云ふ。

「陸軍大臣が泊ると旗を立てる規則なのかね、總理大臣が泊つたら花火でもあげるんだらうね」と自分らしくもない冗談を云つたら、女中は笑つてゐた。

食後、三階の椽に、煙草盆片手に出て行つて、そこにすわり込んで、眼の下の總湯へ、中氣の爺さん婆さんのぞろぞろ入つて行くのを見てゐると、むかふの宿

『婦人運動』誌を通して皆樣の御奮闘振りを想像しつゝ、ともすればたゆみ勝ちな私の歩みに強い鞭をあてては一歩々々と眞實への歩みをつゞけさせて頂いてゐる一人であります。貧弱な私には判りかねる個所も數々ありますが、毎號くり返しく\拜見してゆく内に何れの頁も私の同感に堪えぬことであり、聲を大きくして叫び度い事ばかりであります。

殊に、地方の農村の家庭婦人の生活を目撃する毎に私の胸は一杯になります。新聞や雑誌で立派な説を聞きますし、今一つは日々、教壇に立つて家事教授の際などでも衣、食、住、看護育兒、何々、多少は地方化して教材の取捨はしても理想の住宅の建築や、カロリ計算の保健食糧や、衛生にかなつた衣服の調製等々を習ひおぼえた生徒の一生に、何人がそれをそのまゝ實現する事が出來ませうや。

かく申す私も一人の子供(四)を二歳の時から姑に託して晝も夜も(舍監兼務)家へは歸りません。歸られないのです。殊に父親を失つた子供にとつては私は父であり、母であります。又母である私も夫なき今は、子供が夫でもあり生存の希望そのものなんでございますもの。その子を無慘にも或ひはすかし、或ひはだましてかくれて學校に出て、さうして親(姑)を、子を、

屋の前に自動車が來て止つた。

間もなく、Y陸相の一行が、澤山の女中や番頭に送られて出て來て、その自動車に乗込んだ。そしてその自動車は粟津の方をさして、疾驅し去つた。

と間もなく、さう、ものゝ十分と經たないうちに、さつき一番低く頭をさげてゐた番頭が出て來て、かの日の丸の旗をとりはづして、それから紫の幔幕をもはづして、小脇にたぐり込んでさつさと入つてしまつた。

私はこちらからそれを眺めながら、思はずひとりで笑つた。なぜ笑つたのか、自分もわからなかつたが、そのすぐ後で急に眞面目な、何だか寂しい氣持になつてしまつた。

人間の名譽心や、虚榮心の愚かさを、はつきり見せつけられたやうな氣がしたのだ。

けれどもまた、私は思つた。大臣が泊れば旗を立てる位の敬意を拂ふのは當然であらう。宿屋の誇りとしても　が客がたつてしまへば、それを外すのも當り前のとで、大臣自身も自分のゐなくなつた後で、すぐ外されても、格別面目にかゝはるわけでもあるまいと。

けれども、この簡單な事實は、もつと大きい問題を私に暗示したのである。

大正七八年頃であつたか、讀賣に月評を書いた時に、文章世界に出た菊池寛氏の『藝術と後世』といふ感想が私の注意を惹いた。その中で菊池氏は後世なるものゝ無意味な事を說いてゐられた。

で、私はそれを批評して、其說に半ば同感を表して、不滅の事業を高唱する人も、どれだけ不滅といふ事を眞劍に考へてゐるか、それを突きつめて考へれば、勢ひメタフイヂツクの世界に入る、そしてそこでは一切の見方が一變すべきであると云ふ意味の事を云つた事がある。

そして自分を生かしてゆかねばなりませんのです。

育兒の爲で、母の子供に對するさま〲な注意などを話す時、話す者自身が可愛いゝ子供と夜ですら、共に寐られない事實を思ふ時、いつの間にか教科書を放れて熱い〱涙が知らずにぢんで來ます。

職業婦人の悲しさ、それでも斯うして働かねば三人は生きてゆかれませんもの……

然し地方に住みましては未だ〱私などは惠まれてゐる方ですから感謝しなくてはならぬと思ひます。近所の百姓のおかみさんや漁師のおかみさん、殊に可愛盛りの子供の何といふ慘めさなのでせう。一々申上げるにさへ忍びない樣子で、只生きてゐるといふ名ばかりであります。

それでも子供は無制限に次々と生れます。從つて發育盛りの未だいたいけな五つ六つで、上中流なら女中でもつれて幼稚園に通ひさうな年ですでに、下の子のお守りですもの。赤坊のおしめや足は地を這うてゐます。きつと〱あの母親だつて育てるに困る程生きたくもなかつたでせうに。ほんとうに產兒制限の方法た私が知つてゐるのなら、こつそりと敎へて上げるのにと考へては自分で赤くなる時もあります。

後世などといふ事は、要するに單なる抽象に過ぎないとも考へられる。文學者としては物を書くのは、後世に殘せんがためではなくして自己を生かさんがためである。

知己を後世にまつといふ心持ちもわるくはないが、もつと強くなつて同時代と同じやうに、後世などをもたのしみとしないでただ自分ひとりの滿足によつて自ら酬ゐられるやうになりたいものだ。

但しかく後世を信じないところから、いい加減なものを書いてすまさうといふならば、それは自己に對する侮辱であると思ふ。

俯仰天地に恥ぢぬといふ言葉は、我々にとつても尊い言葉である。その心で書かなければならぬのだと、私はそのとき思つたのであつた。

（頭の工合がわるくて、この二三ケ月何も書けないので、舊稿に加筆して發表する事にしました。）

山にて

奥むめお

八月の末、私は靑森に行つた。靑森縣にはわが「婦人運動」を熱心によんでゐて下さる人が大分多い。未だ會はないけれど、書面を通してかなり親密にお話をし合つてゐた人たち、步一步しつかりと毎日の生活を（或人は職業

どうぞ皆樣、この上ともに弱い同性のために努力して下さいませ、思ふばかりで今さしあたり何の役にも立たない自分が齒がゆくてなりません。廣い日本の一隅で、こゝでなりと出來る仕事で私に惠まれたものから手を着けてゆきませう。遠く帝都の新活動に馳せ參ずるといふ事は私には許されぬ事です。せめてこの山陰の地の涯てから聲も高らかに應援させていたゞきませう。

みなさん御きげんよう

桊番子

…………五月號「婦人運動」の伊藤部敬子氏の（母と子の記錄）を、今もくり返し〳〵讀んでゐます。プチブルヂョア根性とはかうも厭やなものでせうか。私もプチブルヂョアの妻ですだから私は小ブルヂョア根性とか、あいつらブルヂョア女だなどとあいつら呼ばはりをされると口惜しくて仕樣がないんです。こいつらのブルヂョア女共の了見違ひから、こうしてあいつら呼ばはりをされるのだ。人間として餘裕のある生活をする小ブルヂョアがなぜ惡いんです。全世界の人間がみな、かうして暮すべきであるのではないでせうか。

生活を）築き上げてゐられるらしい人たち、熱心に未だ無自覺な村の婦人たちのために、乳兒の育て方や、姙娠中の心得や、産兒制限やについて親切な助言者になつてゐられる人たち等が澤山にある。いよいよその機會が來てかねてお會ひしたいと思つてゐたその人たちにゆつくり、而も町の雜沓から遙かに遠い山の靜かな空氣の中で會ふことが出來たので私はどんなに嬉しかつたかしれない。

山では、悠藏（淡谷）さんが、

『何しろこんな大變な處なんですから、あなたへの御馳走は、これ、この通りの雜草より外ないです』

と云つて、大きく笑つて私に挨拶をされた。

どんな花よりも、名もないやうな道ばたの雜草が一番で私が好きだといふ事を山の人たちは、あちこちの雜誌に私が書き散らしてゐたものを通して知つてゐられたのださうである。

全く、それは文字通りに、地の涯てまでもうち續いてゐるかと怪しまれるほど廣い〳〵雜草原である。高く低く、ゆるやかな傾斜を作つたこの高原で一面の草がさわさわと風にゆれてゐる、そして處々、草と草とに挾まれて陸稻の一區劃があつたり、大根畑があつたり、ダリアの花畑があつたり、まるで無茶苦茶なのである。草を分けて歩いてゐたら足さきに西瓜がころがつた。私はとう〳〵をかしさに吹き出してしまつて云つたのである。――

「ねえ、西瓜を植えてゐるのか、草を植えてゐるのか、これぢやあ何が何だか解りやしないのねえ」

悠藏さんたちは、里から小一里離れたこの山の上で、雜草に埋もれた、土まみ

ブルヂョア女共反省しろつて、なぐりつけたいものです。私にも少し頭腦があつたら暴力團でも拵へていはゆるブルヂョア女共を片つぱしからなぐりつけ、一方自分たちは頰被り。尻はし折りでうんと勞働をして、ブルヂョアの女房だとて、これみよ、勞働の神聖位は知つてゐるぞ、と天下に公示したいと思ひ升。………

伊福部氏には着物が二枚しかないさうで（奥先生には一枚もないさうですが）この私には百枚も着物があるんです。然も美しい着物が一度か二度位手を通した切りでもう派手になつて着られなくなつたのがその儘土藏に入つてゐるのです。みなさんの百分の一の務めもなさない私が百枚の着物を持ち、それでいゝのでせうか。

私の所持品全部を職業婦人社の共有財産にして、就職のお目見榮にゆく全ての無産婦人たちが自分〳〵の好みに依つて自由に着られるやうにしたらどんなにいゝでせう。けれど〳〵私の夫が聞いたら何て云ふでせう。「だからお前は安心して家計の預めない女だ。そんな氣狂ひじみた女は離縁ものだ」と云ふでせう。然し私は、一人では食うてゆく事の出來ない悲しい女でございます。

目の寄る處に玉がよろ。ほんとに職業婦人社

れの姿で、林檎栽培に餘念もない生活をしてゐられる。怪しげな手製の洋裝で手籠を小脇にして、打揃うて林檎とりに出かけられる後姿は、西洋の乞食のやうだと、私にをかしかつた。ママも、男にまけず水を汲み、鍬をおろして激しい勞働に從事してゐられる。

私は、この山へ來て、穗すゝきを見、林檎のなつてゐる美しいながめを見、みんなの働きつ振りをみて、――更には、そこの林檎が（さすがに淡谷さん達の御自慢だけに）非常にうまくて、云ふに云はれぬ味はひを持つてゐるのがたまらなく嬉しくて子供のやうにはしやいで毎日毎朝盛んに食べた。

さうして林檎を食べながら思つたことには、東京でこれ位の林檎が、一つ幾ら位するだらうか。十錢？　十三錢？　いや〳〵、こんなに大きくて、新しくて、をいしくて、色のいゝものを、東京あたりの店頭に並べてあるものと比べるのがすでに間違つてゐる。第一このフレッシュな手ざわり――そして、この匂ひ――

私は、消費組合婦人部がこの、山からとつたばかりの林檎を直ちに組合員の各家庭に提供する樣な仕事を初めたらどんなにいゝだらうに、と思つた。聞けば山では、仲買ひに來る商人に非常に安く、勿體ない樣な値段で、賣るのださうである。山の人達も云つてゐた。

『都會の人達は林檎の食び方を知らないんだよ。綿のやうにかす〳〵になつた變に甘い林檎を、たゞ色がいゝとか、匂ひがいゝとか云つて高い金子を出して食つてゐるんだ。店から自分達の口に入るまでには、五人も六人もの商人の手が入つてゐる事を知らねえで、ほんとうの林檎の美味さは、あんな磨き立てた店頭の林檎にはないだ』

と。私はほんとうにさうだと思つた。

にはすぐれた婦人たちがいらつしやる。かういふ仲間に入れて貰つた私はほんとに嬉しい。然し皆樣のヒッパクした生活狀態を思ふと胸が杯になります。私は小ブルヂョア根性の夫をもち、知らず〳〵の内には私自身もさうであるかも知れないのを恥じます。けれども、生活の安定をえてゐる自分のことを思ふとほんとに幸福だと思つてゐます。自分の生活に就いて心配する必要のない私は、もし、頭腦があつたらどんなに働くでせうに。過分の惠みをうけ乍ら萬分の一のお手傳も出來ず、私は口惜しい。

いろ〳〵こんなことを考へると、私は胸が一杯になつて御飯ものどを通らない日があります。……………

千葉とし子

地方から上京する女子の希望職業に就て

梅山一郎

職業紹介所の統計を見れば、萬餘の求職婦人の身分調べに面白いものもある。然し私が物足らぬのは、その調査項目がいつも紋切型で機械的な事である。私は長い間『我が國に於ける女子職業の分野と其の大勢』を判然せん爲めに、現代の女子の希望職業といふ資料を集めて來た、一二自ら調査した者もある其中で、最近私が調べた「地方から上京する女子の希望職業」に就て其の結果をお目にかけやう。

材料は明治會館の婦人職業紹介所から借りて來たものである。何故明治會館のをかりて來たかと云ふのに、あすこの紹介所は相談もかねて非常に細しい求職女子の身分調べをしてあるので、恐らくよそにない職業　料の價値があるからである。カードは大正十五年一年間の者で、一つ殘念なのは求職女子の學力が樣々な爲め、あらゆるカードが記入すべき事を悉く記入してなく、カードの數は八百枚以上であるが、何れも記入項目の總數は區々である事である。それがため、調べが多少完全に行かなかつた氣味があるが、全體の傾向を掴むには少しの差支へない事を斷つて置く。

▲學歷に就ては、

△高等小學校卒業……………二七〇人
△高等女學校卒業……………二三八人
△裁縫及實科女學校卒業……………一二九人
△高等女學校半途退學者……………一〇五人
△職業學校卒業者……九七人
△尋常小學校卒業者……………四二人

△專門學校卒業者…………二二五人

これによつて見ると、高等小學校卒業と女學校卒業の女子があらゆる最近の求職世界に殆ど同數を示してゐる事實に一致してゐる。若し假りに裁縫學校實科女學校職業學校卒業生を中等教育を受けた者として勘定し、女學校半途退學生を高等小學校に加算すると、中等教育を受けた者が多くなる。女中難の事實も、この學歴から言へば想像がつく譯である。今後一般の學歴が上れば上る程女子の求職競爭は甚くなる。その昔高女卒業生が紹介所をくゞるのを恥じたのは、今の專門學校卒業生の心理と變り、その結果、俄かにへつたのは尋常卒業の女子である。

▲結婚關係

八百名内外の內で配偶者のある者五十三人、元配偶者があり夫と死別、又は不緣となつて子供をかゝえたやもめが十六人で、兩方合せても一割に屆かない。日本の職業が未だ獨身婦人に限られてゐることは何も珍らしい事ではないが、この一割に滿たぬ既婚婦人が、就職に際しては最も苦心しなければならず、中にも子を抱へたやもめの就職に至つては絕無と云つてもよい位その途が、開けてゐないのである。

最近「母子の家」がこの缺陷を滿さうとして二三出來るが、日に月にふへるやもめの數に比べては、九牛の一毛の歎きを見ない譯には行かない。

▲上京の目的

これを滿足に書いたのは四百人許りであつたが、今それを內わけして見ると、

△職業の爲めの學修…………二二七人
△自活の爲め……………一〇〇人
△家の都合…………………五四人
△家族の學資の爲…………一二人
△一身上の不幸を脫れる爲…………九人

第一は苦學が目的、第二は東京の生活がして見度い。東京でなければ獨立出來る職業はないと云ふ事實を物語るもので實際吾々が日本に八十種の女子職業があると云ふが、それは皆都會の話で地方によつては十種の婦人職業さへ發見出來ないのであるから、獨立して見度いと思ふ女子が東京へ集まつて來るのは、尤もである。然しここに注目しなければならぬのは上京女子の半ばが職を得て、さて、其の次に專門の職業を學んで生涯の安定を得やうと希望してゐる事實である。さ

れば事務員も手段の職業、女中も手段の職業として望まれ、目ざす目的は最う一段上の職業獲得にある。果して悉くこの目的を果すか何うか疑問であるが、この純な願ひを持つて上京して來る氣持を買うてやらねばならぬ。

▲年　齢

第一　二十歳…一二九人　第二　十九歳…一〇七人
第三　二十二歳…一〇四人　第四　二十一歳……八五人
第五　十八歳……七二人　第七　二十三歳……六五人
第七　二十四歳……五六人　第八　二十五歳……四七人
第九　十七歳……四〇人　第十　二十六歳……三六人

最少十四歳最高五十六歳で其の間何れの年齢にも一人や二人はあるが、ここに掲げた通り、二十歳が絶頂で、下へ十九十八、十七と三歳下り上へ二十一、二十二、二十三、二十四二十五、二十六と六歳上つたこの十年間が求職婦人年數と見て差支へない。ずつと下の十代がだん〳〵少なくなり、上へ二十六歳まで上つて行つたのは生活難晩婚の事實に一致する

▲紹介所に現る〻時期

上京後紹介所に現はれるまでの間はどの位か、卽ち地方の婦人が上京してすぐ職を求めるものか何うかを調べて見ると六百八十九人中二百八十八人はその年に都へ出て來たものでその前年に出て來た者が百七十七人、その又前年が七十九人で後年順に少なくなつてゐる。大體は三年以内にやつて來た者である。

▲府縣別

東京の百三十六人が最も多く、茨城三十七人千葉三十五人等が次ぎ、遠く北海道臺灣　樺朝鮮に至るまで三府四十七縣全部に渡り、必らずしも近縣が多いとは言えない。之を見るのに東京の求職婦人が如何に全國的であるか、そして大都會の文化の及ぼす所は全國的に行き渡つてゐる事が判るわけである。

▲現在の希望職業

それは理想や希望でないにしても早速生活せんが爲に、先づ就職せんと望む地方婦人の選擇する職業は、

△事務員　四七九人　△店員　六四人
△邦文タイピスト六二人　△女中　三二人
△産婆　二九人　△給仕　一四人
△ミシン裁縫　一二人　△保姆　一〇人
△小學校敎員　七人　△交換手　六人
△英文タイピスト　六人　△女工　六人

△和服裁縫　六人　△洋服裁縫　六人
△外交員　四人　△藥局生　四人
△記者　四人　△女子製圖手　三人
△筆工　二人　△家政婦　二人

以下一人

△畫家　△家庭教師　△中等教員　△內職
△美容師　△學者助手　△社會事業家

の如く、六百七十三中約六割は事務員希望であつて他の四割の內店員タイピストが約二割で、殘りが全體の職業である之から見れば殆ど商業的職業——事務員、店員タイピストの三種で大部分を占めるわけである、婦人の職業紹介所の任務が殆どこれらの世話をする所にあるので、女中の希望者が六百七十三人中三十二人しかない所を見ても女中難の姿がうかゞえる。又この事實は、職業紹介所に見える多くの女中が、殆ど身體一つを運んで來る丈で何の技術もない事が判る。

▲將來の希望職業

所が前の事務員店員は實は勉學獨立の手段として、就職を希望するのであるが、彼の女等の將來の希望職業は別にある之を得んが爲に努力する女子が如何に多いことだらう、之を人數の多いものから擧げると。

△小學校教員　五二人　△產婆　四七人
△邦文タイピスト　二九人　△中等教員　二八人
△和服裁縫婦　二六人　△婦人子供洋服　一五人
△事務員　一一人　△商業に從事　一〇人
△英文タイピスト　一〇人　△ミシン裁縫　七人
△保姆　七人　△記者　六人
△看護婦　六人　△社會事業家　五人
△藥劑師　五人　△美髮師　四人
△女醫　三人　△店員　三人
△速記者　三人　△小說家　三人
△畫家　二人　△音樂家　二人

以下一人宛

△齒科醫△救世軍士官△思想家△圖書館員△圖案家

の通りである。これは全く前者とは異り、現在に於ける有望なる職業は悉く彼等の目標となつてゐる。この表から見ると第一が教職業、第二が醫務的業務、第三が生活的(裁縫)業務の順になつてゐる。之を通じて見る時は將來の希望職業は何れも收入の點、勤めの點、職業的生命の點に於て最も確實なものが選ばれ、特に地方に歸つてもそれが流用出來るものを選んでゐる事は合理的なわけである。(九月二十日記)

鶴海購買組合の共同炊事部をみる

村山重忠

九月十日東京を出發關西、中國、九州地方の勞働者的消費組合の經營事情を調査見學に行つて來ました。其の際長崎で調査範圍外のものでありましたが、頗る面白い組合を見て來ました。依つて此れを御照會し樣と思ひます。

一、沿革

世界大戰の直後總ての物價は非常に高騰して其の止まる處を知らず、物價は高騰するのに反し賃銀は益々降下するばかりでありました。而して多くの家族を持ち不便な地に住居する人達は其の消費に依つて失ふ處實に大なるものがありましたので、此の苦境を脱する一つの方法として出來たのが此の組合であります。所は長崎市戸町であつて、其の組合員は悉く遊廓であります。而して大正九年九月四日縣の認可を得、爾來今日に至つて居ります。

二、組織

組合員は、現在一七名、要するに一七の樓が加盟し、其の出資額一口五十圓、出資口數一七〇口、出資總額一萬五千圓を有して居ります。而して此の出資の中先づ六千圓を投じて家屋調度其他の設備をしました。尙、剩餘金は配當せず、目下は組合の事業擴張改善のために使用されて居ります。

三、仕入

物品の仕入は組合事業をする上に於て困難事の一つでありますが、此の組合では物品購入の場合成るべく商人の手を經ず生産者より直接購入する樣にして居ります。創立當時は入

札に依り取引商店を指定してきましたが、品質の向上と價格の低廉を期する爲め現在は同一商品を二商店と取引して見て各の良品を仕入れる樣にして居ります。此の任務の擔當者は常に市場の物價の高低を調査して仕入物品は其の價格に對する品質の價値あるや否やを注意して居ます。

四、賣　却

此の組合の主なる事業は、現在は炊事でありますが、其れ以外にも加工品を幾分仕入れて組合員には市價程度の利率を掛けて配給してゐます。然し加工品以外の經濟用品には三步の利率を掛けて配給してます。

五、注　文

扨、注文ですが、此の注文は總て傳票用紙により、朝食（午前十時頃）の分は前日午後八時迄に注文を受け、夕食（午後五時頃）及び（夜食午後十一時頃）は其の日の正午十二時迄に注文を受けることになつて居ます。此處で不思議に思はれるのは、食事の時間であります。これは、他の一般社會と異り、此處は遊廓である爲めに夜の商賣であり、從つて朝は一般よりも遲く起きるから、從つて其の食事時間が、かく普通の食事時間とは大分變つて居る次第であります。それから其の注文する御飯の量は何升何合とし副食物は何人前としてあります。此處に、私の面白く思つたのは、其の副食物なり御飯の質なりが、悉く同一であることです。これは、樓主も娼妓も總て同一の御飯を食べ同一の副食物を採ると云ふことです。現在の社會一般を見ますに、例へば一軒の家庭內に於て主人側と下奴側との食膳は必ず異つて居るものです。主人側は山海の珍味を食べて居ても下奴側は大根の尻尾の煮付とかまづい漬物位が關の山でせう。決して同一のものを食べて居るところはありません。私は斷言してもよいのです。又、銀行、會社、官廳等に於て勅任官の辨當と、奏任官の辨當と、判任官の辨當と、等等等、其等の區別は實に歷然としてあり否其の食べる場所さへもキット區別してあることでせう。所謂階級的觀念が赤裸々に暴露されて居るのであります。實に見ぐるしい社會です。從つて又實に悲しむべき習慣です。然るにどうでせう。勞資の區別從つて階級觀念が他とは殊更に截然として居るべき筈なる此の樣な遊廓の中に於て、樓主も娼妓も同一の飯を食ひ同一の御かずで、同じ處で仲良く食べ

ると聞いては、一寸おかしく聞えはしませんか。然るに、それが此處では、事實立派に行はれて居るのですから驚くべきです。此點は、我々の見習ふべきところであり、且又今後の消費組合運動の進展するに就いても、大いに考ふべきところであらうと思ひます。尙附言すべきことは、遊客の食事ですが、遊客から別に注文がなければ、皆と同一のものを食べ、注文のあつた時には別にやはり此の炊事部內の料理部で調理して出すことになつてます。又、此時に一つ問題になることがあるのですが、それは樓から通學する兒童達の食事です。これは、あちらの風習として、朝飯は常に冷飯を食べる樣になつてますから、兒童達の樣に朝早く起きる者は冷飯を食べるので、それが習慣ですから、別に苦情もないそうです。

六、炊　事

注文を受けますと其れを纏めて一時に焚炊するのでありますが、米はスチームを以て熱して御飯を作るのだそうです。

七、配　給

朝食は午前十時頃、夕食は午後三時半頃に組合員の住宅に人夫をして配達せしめるのであつて、副食物が冷却した場合は容器を其儘火にかけて温めることが出來ます。

八、價　格

御飯は米に於ては市價より四五錢安價に購買してますので炊焚料として四五錢徴收して居ります。從つて組合員は市價にて御飯を買ふことになります。其間手數と薪とが節約出來るのであります。副食物は味噌汁一人前二錢煮付は七錢漬物一日分約三錢であります。

九、代金の回收

代金の回收は各組員一ケ月分買入價格を見積り、毎日々掛金として徴收するのです。日掛金は融通資金となるので、組合經營上最も重大なるものであります。で、月末に締切計算をして過不足は翌月十日迄に收支計算をします。

一〇、獻　立

獻立の一例を次に示しますこれは毎月十五日毎に改めるのであります。

婦人界の近事

關東婦人同盟の全國同盟

關東婦人同盟では進んで全國同盟を作る準備を目下急いでゐる。なほこの同盟は、この程の府縣會議員選擧に際してその立場を明かにするため、勞働農民黨を支持する旨發表した。

これから、各工場の賄改善、寄宿舍の外出自由、室長の公選、强制貯金や送金制の撤廢、女工保護法制定等のために全國の無產婦人團體と協議會を開くべく宣傳してゐる。

全國婦人同盟成る

これは日本勞農黨に屬する婦人同盟である。最初、婦人同盟の創立に協力してゐたのであるが、途中から左翼婦人と袂を分つたために脫退し新しく別のものを成立させたわけである。

主として紡織工場に働いてゐる人に依つて成つてゐるが、大いに一般婦人殊に職業婦人の間に宣傳を進めて行かうとしてゐる。綱領や申合せは、殆んど關東婦人同盟のそれに同じい。

職業婦人社集會初まる

今度新しい事務所を市ケ谷に持つたので、これから每月一回第二日曜には懇談會をかれて研究會を開く。常に婦人として最も大切な、當面の問題を捉へてはやつてゆく筈。

消費組合婦人部の活動

消費組合婦人部もいよ〳〵活動を開始した。

家庭婦人は、家庭婦人として最もしつくりして題目を捉へて活動してゆかうとしてゐる消費組合婦人部の集りに出席してほしい。

每月第一、第三月曜の夕方から小石川區諏訪町三十七東京共働社で集會をする。第三月曜の場合はいつも各方面の專門家を招いて參考になる話を聞く集り、第一月曜日は、婦人部として行つてゆく實際の運動について協議や打合せをなする集りである。

岡谷の製糸工場の大爭議

ムロのやうに封じこまれた信州岡谷の製糸女工が、爭議を起した。會社側の態度は中々强硬である。勞働總同盟では早速爭議團本部をおいてしきりに應援隊を派遣してつくした。

然し爭議は慘敗に終つた。極めて少數のものを除いて、女工達は資本家のもとに復歸した。

江東消費組合家庭會成る

家庭會成る關東消費組合聯盟所屬の各消費組合で婦人部を作る準備を進めてゐるのであるが江 が最切に出來上つたわけだ。名稱を家庭會とよぶことにした。その規約概要。

一、私共の會は、江東消費組合家庭會と云ひ家庭經濟の改善に志す婦人を以つて組織します。

二、私共の事務所は、東京市本所區松倉町二丁目六十一番地に置きます。

三、私共の會は、消費組合の精神と事業を廣く社會に徹底させ以つて家庭及社會の經濟生活の改善を圖ることを以つて目的とします。

四、私共は、右の目的を達するために、凡そ次のやうな事業を致します。

イ、消費組合の宣傳普及

ロ、家庭經濟の改善進步を圖る實際的研究

ハ、榮養、衞生、服裝、住宅の實際的研究

ニ、家庭敎育、兒童保護に關する研究、

ホ、右の外必要と認めたる事業

五。私共の會に委員若干名を設き會員中から選擧致します。

委員の任期は一ケ年とします。

六、委員長及常任委員五名は、委員の互選によつて決めます。

七、入會及退會は委員に於て取扱ひます。

八、家庭會の會費は月拾錢とします。

◇產兒制限及び墮胎と現行法律◇

開地敏子

身の上相談に答へて

私は或會社員の妻で御座います。良人は俸給として毎月百五圓を頂いて居りますが、女學校に通學中の長女と、小學校在學の一男一女と、當年四歳の幼兒がありますので家計は非常に苦しいので御座います。でも今日迄は仕立物の内職など致しまして、什うやら經濟を繰廻してまゐりましたが此上更に子供を產む樣では共倒れだと存じ、其後は隨分注意してまゐりましたのに、いつの間にやらお恥しい事ながら亦懷姙いたしまして、實は非常に後悔して居ります

併しまだヤット三ケ月目なので、一層のこと流產さして仕舞つたらと思はぬでも御座いませんが、それは道德上大きな罪惡で御座いませうし、更に法律上にも相當な制裁がありませうから心配で御座います。でも正しい夫婦關係の者が合意上での人工流產ならいかゞで御座いませうか、私は法律上のことは何んにもわかりませんし、產兒調節研究會と云ふ樣なものも時折見かけますが、そんなものを利用してよいものか？　惡いものか？　いろ〳〵迷ひますので御相談申します次第で御座います。何卒よき方法を御指示下さいませ（以上原文要旨）

御相談に答へて

御質問の趣きは能くわかりました。

實は貴方同樣の問題で惱んでいらつしやる方が非常に多いと云ふ昨今の現象なので、貴方お一人にお答へすると云ふ意味でなしに、一般の御婦人に讀んで頂く心算で此の御返事を書くことに致ました。

產兒調節の問題はモウ社會的重大問題で、本誌第五卷第五號（昭和二年五月號で）奧むめお女史が產兒調節に就いてと云ふ題目で執筆して居られますから御存じのことで御座いませうが、所謂巷間ありふれた產兒調節研究會とか何々會と云ふものは眞面目に研究されるよりも、不良の徒に惡用せられること多く其筋に當局の目が怪しくがゞやき避姙法としてやゝ理想に近い避姙用器具は子宮癌の遠因をなすと云ふ某醫學博士の說なので此節はそれも恐れられてゐます。

併し此問題は早晩何とか解決をつければなるまい問題でこれが根本的の解決はもはや消極的な方法では駄目だと云ふので、現司法官や在野法曹中には產兒調節の積極的方法として制度の改革に俟つより致し方がなからうと、各國の資料を蒐集して熱心に墮胎無罪論の學理的倫理論根據を研究して居られる篤志家もあるのです。

抑も墮胎が處罰される樣になつたのは近年の事で、從來はいづれの國でも墮胎は處罰してゐなかつた樣でありますから、產兒調節と云ふ樣なむづかしい名前をつけないで、無意識的に慣習として墮胎が行はれて居たものらしく、ギリシヤのプラトーなどは國家政策上寧ろ墮胎を奬勵したとも見られてゐます。

併しキリスト教の見地からは墮胎は罪惡と見られキリスト教の影響を受けてゐるローマ法は絕體の宗教的政治的權力下に、所謂教會裁初に於て墮胎を嚴罰に處したのであります。だからキリスト教主義の敎化を受けてゐる國は總じて墮胎嚴罰主義で、これは胎兒にも生靈が

宿つてゐるのであるから、墮胎は生靈を冒瀆するものだと云ふ解釋から墮胎嚴罰主義を採つたのであります。

我國は明治十三年に舊刑法が制定されるまでは大寶年間に出した大寶令にしても、足利時代の建武の、式目、德川時代百ケ條にしても墮胎を罰した記錄はない樣でありまして、只諸大名の自由權限內では處罰主義を採つてゐたところもないではありませんが、まびきと稱して墮胎は默認されて來ました。

それが明治十三年舊刑法が制定さるゝ當時我國の法律はドイツ法フランス法を模倣して組立てたローマ法の流れを汲んだ法律でありますから、始めて此時に至つて諸外國の法律を眞似て刑法の條文中に墮胎罪を加へ、それが現在の新刑法にも傳つてゐるのです。

未開國では墮胎を處罰しないで、墮胎行爲をなしたる場合には祝宴を張つて喜び合ふ慣習を殘存してゐる處もありますが、近世の文明諸國では、國家主義的立場から、國民の繁殖は富國强兵の實を擧げるものとして墮胎處罰主義を採つてゐる國の方が多い樣であります。

併し人口過剩と物資の缺乏は新マルサス主義を產み、革命後のロシアは一九二二年の刑法典中に墮胎を罰しない條文を加へ國立の墮胎院で公然と無料で手術を行ふことになつてゐるそうであります。

その理由は如何に刑法で墮胎を罰しても濱の眞砂と同樣、內密で墮胎する婦人は數知れず祕密に墮胎した結果婦人は著しく健康を害し百分の八十六パーセントは內密墮胎の爲に健康を冒され、百分の四パーセントは其爲に死亡してゐると云ふ統計なので衞生的に國立墮胎院が婦人の健康維持の爲に手術を行ふので、無免許の醫師や產婆が墮胎手數を講ずると違法として處罰されると云ふ話であります。

ドイツでも一九一八年には墮胎刑罰制限論を議會に提出し、同年共產黨（第三インターナショナル）は刑法の條文中から墮胎罪を廢除する議案を提出しましたが之は議院を通過しなかつたのであります。

扨て我國の現行法での墮胎は什うか？と申ますと、秩序維持上絕對に墮胎に許されないのでありまして刑法二百十二條に、

『懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ、又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス』

と規定されてゐますから懷姙前の避姙手段は法律上何等處罰する規定はありませんか、姙娠した婦女が法律上の正當な理由なくして墮胎した場合は娘と人妻たるを問はず二百十二條の規定で處罰されなければなりません。尙夫婦が協議上ならばと御質問にありましたが、法律上では夫婦の協議上の墮胎でも勿論犯罪は構成するのでありまして、夫婦協議の場合は却つて夫は共犯者として刑法六十條―六十五條、罪に相當することになります。

又大野博士の樣に、姙婦が知らぬ間につまり姙婦の承諾なしに墮胎手術をした場合或はさした場合には相手は他人であらうと、親であらうと、職業上であらうとを問はず刑法二百十五條の、

『婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス』

の條文に該當することになりますから娘の姙娠に母親が醫師となれ合ひで娘に知らさず手術する事は勿論この條文に該當するでせう。

だから產兒調節の方法は墮胎が現行法で認められない限り、法律上の拘束のない避姙法を選ぶより適當な道がないのでありますが、其避姙法が前述した通り、いろ／＼惡結果を生じ易い傾きがありますから、積極的な社會政策が講ぜられ、積極的な制度の出現を見るまでは、生溫い錢湯に這入つて、天下を論じてゐる境遇から脫し得ないと覺悟しなければなるまいと思ひます。

但し醫學上の見地から母體保護の意味での墮胎ならば決して法律に觸ること がないのであります。（擔當者開地敏子）

直ちにあなたの食卓へ！

青森の黎明草舎の人たちが作つたをいしい林檎、木からとつたばかりを箱詰めにしてお送りいたします。新鮮な林檎を召上れ。(紅玉又は滿紅印といふ種類)

賣價				
特等品	正味四十斤 (百個内外)	一箱	五・五圓
二號品	同	同	四・〇圓

——申込みと共に送金のこと——送料一切不要。

四十斤入り百個といへば可なりな大粒です。二號品は、寄宿舎やお子さん達の多い御家庭のおやつとして好評をえてゐます。味に變りはありません。

お申込み——東京牛込區本村町四

職業婦人社



隔離病舎

淡谷悠藏

病舎の椽の下で蟋蟀が啼いて居る。それもめつきり弱つて來た。

もう十月も半過ぎ、津奈子がこゝの病舎に派出してから一月にならうとして居る。

先刻まで帳薄を整理して居た若い役場員も提灯をつけて山道を下つて行つた。一緒に勤務して居る光子も寢て了つた。

津奈子は丁度朝鮮の秋子に手紙を書き了へたところであつた。封をしたあと茫然と目を遊ばせて居るランプの火屋にかげろふが死んで居た。

兒を負ふてやつれて何も彼も諦めたやうに、半ば捨て鉢にお洗濯でもして居るであらう秋子が、あの大きな眼にいつもの癖で涙をにじませ乍ら兒を寢かしつけたあと、凝と壁でも見つめて居るであらう秋子が、津奈子の眼に見えて來るのであつた。

三年前、旅の勤務先で、大患ひをした時その他の誰彼と一緒に秋子も親身になつて介抱して呉れた。萬事乏しかつた津

奈子にいろいろと力になつて呉れた。そして殆んど醫師にも見放された津奈子が、奇蹟的にその二年越の病床から起き出すことが出來た時、彼女は秋子の樣子の著しい變化に氣がついた。

「妾もう駄目、駄目なんだわ、私と絶交して下さい、ほんとうにもう駄目……」

不意にさう云つて、聲をあげて泣き出したりする秋子を、津奈子は痛々しく見た。長い間の看病や何や彼やの氣疲れで、病氣にでもなつたのではないかと心をいためた。

熱の爲にほとんど脫け落ちた津奈子の髮の毛が、やがてまたタンポヽの實のやうにボヤ〳〵と生え出し、それが目に見えぬ位すこしづゝ伸び出して來た頃、秋子はすこし働いて來るからと云つて、津奈子の病後のことを別な友達に賴んで九州の方へ出かけて行つた。

あなたには濟まないことをした、妾もうお目にかゝれない。

そんなことを書いた秋子からの手紙を、日の當る廊下へ持ち出して貰つた椅子の上で讀み乍ら、津奈子には何のことやら解らなかつた。

「秋子さんどうしたんでせう。この頃何だか變ぢやない」

「ほんとうにね、どうしたんでせう」。

友達もさう答へる丈であつた。

しかし後で考へて見ると、友達の知らない筈はなかつた。津奈子はさうして自分では氣付かぬうちに、今の秋子の夫の小池と戀仲のやうに思はれて居、秋子には病氣して居る友達の戀人を奪つたといふやうな自責の念を與へ、また自分では戀を失つた人としてのいたはりを周圍から受けて居たのを知つた時、ぼーつと顏の赧らむのを覺えた。

「そんなことはないわ、噓よ、噓よ」

始めて彼女にそのことを知らした友達に彼女はむきになつて云つた。

その小池といふ青年にしろ看護などして歩いて居るうちに、いつか知合になり親しくなる、異性の友達の一人に過ぎなかつた。よし病氣して氣の弱くなつて居る人には、若い看護婦のやさしい看護に戀の芽を探して、自ら微笑む程のことはあらうと、津奈子にはそれに應じる戀の模索はなかつた。

それよりも彼女には、脫け出して來た田舍の暗い生活、そこに罪でも犯すやうに雜誌の切つぱしでも探して讀んだ過去の生活のことが常に思ひ返されて居たのであつた。

津奈子はさま〴〵の女の生活を見、かつて想像だにしなかつた生活の姿を見て、そこに「女性」としての苦悶をあきらかに感じることが出來た。彼女は過去のあの暗い生活の中で、無意識にあがき求めて居たものにふれたやうな氣がして居たのであつた。

小池が津奈子の病氣の間、しげ〳〵と見舞つて吳れたことや、津奈子も譫言のやうにいろ〳〵な我儘を云つたことなど、その後聞かされた時、思はずまたぽつとし乍らも、

「まアそんなこと、どうなつたつていい、面倒臭い」と突き放すやうに云つては、またそれが失戀の捨て鉢のやうにとられはしなかつたかと思つて顏を染めた。

全くそんなことよりも津奈子は、病氣前と病氣後の氣持のつなぎを見出すことに骨折つて居た、籠の中にでも居るやうに只熱く苦しかつた日を間に、津奈子は以前のことを、夢のやうにしか覺えて居なかつた。つい昨日のことのやうでもあり、遠い遠い昔のことのやうでもあつた。

「死にかけたのだ」そのことのみがはつきりと意識にのぼつた。縛りつけられたやうにこはばつて動かぬ手足、穴のやうになつたひどい床ずれの痕、馬鹿のやうになつた頭——それがいつの日恢復することか。

「癈人だ」

自分の名前さへ書くことを忘れて居るのを知つた夜、津奈子は聲を立てゝ泣いた。

しかし、その頃からも、もう二年は經つて居るのだ。

「死ねないものだ」、

秋子への手紙を前にして、彼女はさう溜息のやうに呟いた。それから思ひ付いて、就寢前の檢溫をする爲に立ち上つたが、近頃急に夜寒がひどくなつて來た爲か、足が感覺を失ふ程冷えて居た。

薄氷が張りはしないかと思はれる程寒い朝がつゞいた。津奈子が來た頃はまだ靑かつた野や山がもうすつかり褐色にかはつて、霜のひどい日は病舍の前のポプラが風もないのに終日ハラ〳〵と葉を落しつゞけて居た。丘の中腹を崩して建てたぼろ長屋のやうな隔離病舍の窓からは遠い國道の坂道を行く荷馬車が小さく見られた、風の方向でコトコト〳〵と寂しい音の聞えて來る日もあつた。

谷間の細長い田圃では一日一杯人々が稻刈をして居る。すべての上に秋も末の日ざしが淡く弱々しかつた。

六疊宛に仕切つてそのうち二疊は荒莚を敷いて廊下のやうにして使つて居る病室に二人三人宛患者が寢て居た、糞便や垢の匂ひでむつとするやうな中で、津奈子は不自由な足を引きずり〳〵いろ〳〵な世話をした。

髮を梳いてやると櫛の齒に虱がボロボロとかゝつた。唾や汗や洟に汚れた寢卷をかけ直してやらうとするとベトリと指に氣持惡く、その手にまた虱が這ひ上つて來る。

しかしもうその誰彼の顏も見知る程、津奈子はなれて來た。患者達も馴染んで來た、何かの空箱へ入れられて、すぐ火葬場へ送られる幾人かも病舍の入口からぢつと見送つた。

「看護婦樣、ほんとにお世話樣になりましたにし、お蔭樣で生命拾ひしましてはあ」

僞ならぬ淚を浮べて莚の上に手を突く婆さんもあつた。

避病院へ連れて行かれるといふことを、生き乍ら墓場へでもやられるやうに村人達は恐れた。その爲には病人をかくせる丈はかくして置くのであつた。病人は戸板にのせられて村からの坂道をかつぎ込れて來る。ある日など一町も

先で大聲で叫ぶので、豫防着のまゝ津奈子が馳けつけて見ると、戸板の上でカラ〳〵に瘠せたお爺さんが、もう縡切れて居た。

「爺さまアどうなつたんです、どうなつたんです」後につゞいた戸板から連合らしい婆さんがおろ〳〵云つて居た。一人でかつぎ込れたその婆さんは

「いつつから諦らめて居るんだはで、爺さま死んだんだら死んだつて知らせてけさまい」

と津奈子に云ひ〳〵して居たが、一週間も經たぬに、自分も死んで行つた。

醫者は日に一度、村から馬で上つて來るのであつた。コール天のズボンなど穿いて、八字髭を貯へて居た。如何にも威厳を保つやうに後から津奈子や光子がかけてやる豫防衣に腕をとほすと、胸を張つて見まはつた。さうして幾日經つても津奈子達にはニコリともせず冗談一つ云ふこともなく、トコ〳〵また馬で村に下りて行つた。そのあとで光子がその威張つた樣子を眞似て津奈子を笑はせたりした。

夕方になると役場員が來るのであつた、そして患者の死亡や入退舍や其他の出來事など記帳し、そのあと津奈子達を相手に遲くまで話し込んで行つたりする。

一週間交替で二人來るのであつたが、一人は相當の年輩で、小使に酒を買はせては、月給の安いことを、こぼしたり、くだらない冗談口を利いたりして、おそくまで居て、グデ〳〵になつてから小使に送られて歸るのであつた。

「姐さん達、まアすこしお酌して呉れてもよかべし」と云つたりすることもあつた。年上の光子は一度結婚したこともあり、そんなことには平氣でお酌などしてやるが、津奈子は何だか侮辱されて居るやうに感じて、いつも返辭もせず隅の方で、本を讀んで居た。

「隨分、勉强だにし、さう勉强ばかりしないで、すこしこれこつちさ向いたらいかべし」時にはさう云つて手をのばして讀んでる本をひつたくつたりするが、その上機嫌な邪氣のない顔を見ると、津奈子は怒る氣もしなかつた。

「ハイ〱、さ、お酌してやらはで、早く戻つて寐さまい」

彼女は故意とその土地の言葉を眞似て、氣さくに云つては、二つ三つお酌をしてやつたりした。

よく患者の食べる卵が村で切れたと云つて來ることがあつたが、あとでその卵代がこの人の酒代になることを知つた、その爲に時々卵が切れるのであつた。津奈子は腹も立たなかつた。乏しい財布をはたいて、そつと卵を買はせたりした。

もう一人の若い役場員はまた反對に口數も尠く、控へ目であつた。何か一寸したことを云ふにも顔を赤くしたりするので、いつか「坊ちやん」といふ名をつけられて居た。「坊ちやん」は極端に臆病だつた。歸りが恐いといふのでいつも役場の給仕を連れて來た。そして時には菓子など買つて來て、四人でトラムプをやつて遲くまで遊んだりした。坊ちやん達の歸つて行く提灯の光が、山道を遠ざかつて行くのを、窓硝子越しに眺めて居ると、何とも知れぬ哀感が津奈子の胸に湧くことがあつた。頼無い望尠い行末のことが彼女を涙ぐましくした。

「遊んでなど居れないのに」

彼女はさう思つて、本など披くのであつたが、

「あなた勉强して居なさい、檢溫して來るから」と氣を惡くしたやうにして、出て行く光子の言葉に、もう讀みつゞける氣も失せて、暗い硝子窓にうつるランプの灯影や自分の白い豫防着など着た姿にぢつと眼をこらして居るのであつた。

津奈子が一寸の暇があれば本など讀んで居るのを、光子はいつもよく思はなかつた。

「妾なんか學者ぢやないから」。ともするとそんなことを云つた。しかし津奈子はまた、暇さへあれば何か縫物をし、勘定を取つたら何か着物を買ふことばかりを樂しみにして居るらしい光子に、ある反感を感じるのであつた。

「それ丈が女といふものなのか」

それは單に光子に對してのみ感じることではなかつた。之迄も多くの女達に對して彼女はさうした憤を感じて來た。しかし病氣以來、滅切り根氣の無くなつたそしてまた記憶力の減退した頭を思ふと、畢竟さうした氣持さへ、空な思ひ上りに過ぎないのではないかとも思つた。

帶のことを思ひ、着物のことを思ひ、結婚と家庭と子供のことを思ふより仕方がなくなるのではないかと思ふと、ちりぢりして來た。

「それ丈が女といふものか」

津奈子は深い溜息を吐いた。その息が白く凝る程の夜寒だつた。

幾人かは死んだ、幾人かは瘠せこけた顏に晴れやかな笑を見せて、荷馬車に乘つて村へ歸つて行つた。そして尙幾人かは病舍の赤茶けた褥の上に寢て居た。

煤けた障子を或時は佗しく雨が打つた。離れた紙が風に吹かれて笛のやうに鳴る日もあつた。そしてまたある日は淡い日影が射して、葉の落ちつくしたポプラの影が映つて居た。

津奈子はこれまで東京の一流の病院にも幾度か派出した、白い輕い羽蒲團、寢臺、暖爐、煽風機、花を入れた氷の柱、博士——さうした中で看護をして來た。

そして今、惡臭と蓙と不足な營養と皆に行きわたらない氷と、義理一遍の診察と申譯ばかりの藥とで、垢だらけの虱だらけの人々を看護して居る、これ等の人々は烈しい勞苦と貧困との中から生き乍らの墓場のやうな避病舍に遺棄された人々だ。生き返つてもまた勞苦と貧困の中へ歸つて行く丈だ、この人達の生きることゝ死ぬことゝどれ丈の違があるといふのか。

津奈子は、索莫とした思に打れることがあつた。さうした時、彼女の胸によみがへるのは捨て去つた自分の村のこ

とであつた。暗い生活のことであつた。父のことであつた、母のことであつた。弟のこと、妹のことであつた。

「妾は何をして居るのだらう、何をしやうとして居るのだらう」

夕近くであつた。津奈子は病舎の後につゞく丘の上をぶら／＼と歩きまはつた。

血のやうに赤い日が沈みかけて向山の松林をすかして見せて居る。空の色も山の色も寂れ果てた澄み方をしてつゞいて居た。

丘のむかうに、田から刈り上げた稲を乳穂に積んで居る人々が居た。村の人達は隔離病舎の看護婦が出歩くといふことを、病氣が出歩くことのやうに嫌ふことを津奈子は知つて居た、若し白い豫防着の彼女達と山道で逢ふことがあれば、ずーつと避けて通ることを知つて居た。彼女はそれで、今もその働いて居る人々に近付くことをせずに、丘の上を往き歸りし乍ら、遠い下の村の家々を眺めたり、刈りつくされた田を見たりした。ひつそりとして蟲も鳴かなかつた。

秋子は小池との結婚がうまく行つて居ないらしかつた、山師的な仕事の好きな小池は朝鮮で失敗して、可成窮迫して居るらしかつた。秋子は內地へ歸りたがつて居た。

津奈子は秋子の思ひがけぬところへ旅費を送つてやらうと思つたのだ。それで丁度よく話があつた隔離病舎へ來たのであつたが計へて見ると、もう給料は津奈子が送らうと思つて居る高になるらしかつた。

患者も大分減つたし、あと光子一人で充分手も足りる。

津奈子は思ひがけず旅費を手にして秋子がどんなに喜ぶかと思ふと、心から喜がこみ上げて來た。病氣して以來これ程、晴々しい喜を感じたのは始めてゞあつた。たゞ、その爲に秋子がまた何でもない小池と自分とのことを思ひ過して濟まないとか何とか心をつかふのではないかと思ふと心苦しかつた。

「妾なんか何でもなかつたんだわ、たゞあなたが、もう何も彼も子供の爲に忍ぶなどといふやうになつたのが却つて

悲しい位なの。女つてそれ丈のものか知ら、それ丈のものでしかない結婚のことばかり考へて居なければならぬのか知ら」

津奈子は呟くやうに云つた。

その夜、彼女はもう五六人より居ない患者一人一人に「お大切に」と「左様なら」を云つた。女の患者には髪を梳いてやつた。

翌る日、村役場へ行つて、給料を受け取らうとしたら、村長が約束より、まけさせやうとした。

「よござんす、そんな位なら何もいたゞきませんよ。何處へ行つたつて給料を値切るなんてあるもんぢやない」

津奈子は思はずくわつとなつて云つた。そんなことになると、秋子に送れやしないのだつた。

「いや強ゐてと云つたんぢやないです、拂ひます、拂ひます」

村長はあはてて云つた。

津奈子は歸りしなに、自分の机のところで筆を止めて、彼女の權幕に驚いておどおどして居た、坊ちやんを見た。

「坊ちやん、左様なら」彼女は低聲で云つて微笑んだ、坊ちやんは赤くなつて微笑を返した。その坊ちやんにも妻があり、子供があるのだといふことを、津奈子は聞いて居た。

役場を出てから津奈子はもう一度、丘の上の隔離病舎を見返つた。それは荒寥と枯れ果てた草原の中に、小さくちゞこまつて居た。

彼女は給料のことで村長と口論をしたのを、自分に恥しくなつた。「何處へ行つたつて給料を値切るなんてあるもんぢやない」事實、これまでは給料以外に心付を貰つて、叮嚀に感謝されて送られるのであつたが、それにしても只金が欲しいばかりであつたのか。

津奈子は殘して來た病舎の人達に強く心惹かれた、遺棄された人々の中から、またその生活の中へ起ち上らせてや

つたことに云ひ難い滿足を感じた。

彼女はバタリ〳〵不自由な足を停車場の方へ運んで居た。彼女は秋子へ送つてやる金の餘分で、迫つて居る冬から病後の自分をまもらねばならないのであつた。

彼女も遺棄された人々の中から出て來た一人であつた。一九二七・一・二一

事務所移轉

長い間の念願がかなつて、やつと適當な處に事務所を見附けて引越しをすましました。六疊四半疊、二疊の三間しかない手狹まな家ですけれど、割りに落付いた氣持のいゝ家で、引越し早々からみんな仕事の上の能率が上るので大いに喜んでゐる所です。

これまで多忙にまかせて、事務の上にも混線脫線立往生等々まことに相すまぬ次第のことが屢々あつて、皆樣に隨分失禮をしてゐましたが、これからは大いにうまくやつて行つて賞めて貰へる自信があります。丁度時候もよし、これからうんとヘビーかけて働きます。「職業婦人の家」が出來上るまで當分この事務所の机の上で私たちはあなた方の手紙を讀み、御返事を書き、名簿を整理し、職業婦人社の發展策を講ずるのです。地方から上京されたときには、きつとこの事務所へたづねて來て下さることを約束して下さい。

在京の讀者のみなさんは、毎月第二日曜夕方から開かれる懇談會に必ずお出かけ下さい。この事務所をみなさんのクラブとして御利用下さい。

月例懇談會開始

府縣會の選擧もやうやく終りました。あなたの地方で、新しい時代の縣政を託すに至ると思はれる人が果して當選したでせうか、いろ〳〵考へさせられなさつた事も多かつたろうと思ひます。或る友人から、「これまでの樣に煩さい戶別訪問のお客樣も來ず、選擧の當日だつてかり出しに來る人もないのですから、これで全國的に行はれてゐる縣會の選擧かと自分でさへ疑ふ位の靜かさです」云々といふたよりをうけましたが、いつも馬鹿騷ぎをしなくては選擧氣分になれない樣な誤りから、早く私たち自身も脫出しなければなりませんね。

本號の「鳴海購買組合の共同炊事をみる」記事は興味深い讀物だと思ひます。女が全き解放をえるためには、どうしても日常のこの家事的襍務におはれる時間と勞力を少なくするより外ないと思ひます。いろ〳〵便利な器械や方法の考案されてゐる二十世紀の今の世に生きてわれ〳〵は簡易に機械の力で出來るものは成べくそれに任せて、私たちの精力と勞力とを、もつと有效な個所に——外に代つてやつて異れるものゝない個所だけにうんと使用したいものだと思ふのです。

煩雜な私たちの家庭生活の改善について大いに考へてみやうでありませんか。

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵稅五厘）
半年分　壹圓四拾錢
壹年分　貳圓八拾錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和二年九月廿八日納本
昭和二年十月八日發行

發行編輯兼印刷者　東京市外中野町園三二四四　奥むめお
印刷所　東京市神田區三河町三ノ六　協營社
發行所　東京市牛込區市ケ谷本村町四　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

世界家庭文學大系第二卷

最新刊

王子と乞食

マーク・ツエイン著

村岡花子譯

菊判上製 定價二圓五十錢
三八〇頁 送料十八錢

三誦せよ!!
王子と乞食

米文豪マーク・ツエインの傑作!! ユーモアと暗示に富む高雅な讀物。若き王子の數奇な運命と怪僧ご無籍者と花の如き少女と而して悲運に泣く美丈夫など種々なる人物の活躍につれて讀者は或は戰き或は微笑み或は涙しつゝ頁を追うて卷を措く事を忘れるであらう。眞に之れ家庭文學の白眉譯者の才筆また原作の妙味を傳へて剩す處がない。

大正十三年十一月二十二日　第三種郵便物認可
昭和二年九月二十八日　印刷納本
昭和二年十月八日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動

第五巻
第九號
（定價二十五錢）